国際学部

FACULTY OF INTERNATIONAL STUDIES

履 修 要 項

2023年度入学生用

大阪経済法科大学

OSAKA UNIVERSITY OF ECONOMICS AND LAW

国際学部

FACULTY OF INTERNATIONAL STUDIES

履 修 要 項

2023年度入学生用

大阪経済法科大学

OSAKA UNIVERSITY OF ECONOMICS AND LAW

国際学部履修要項 目　次

建学の理念・本学の教育目的……4
学位授与の方針（DP）、教育課程の編成・実施の方針（CP）……5

Ⅰ 国際学部国際学科教育課程

❶卒業要件（2023年度入学生）……8
国際学部 国際学科 卒業要件
（1）共通教育科目　（2）専門教育科目　（3）その他共通教育科目又は専門教育科目

❷国際学部国際学科カリキュラムの概要……10
（1）必修外国語　（2）専門基礎科目　（3）コース制と履修モデル

❸各コースの概要と履修モデル……12
（1）英語コミュニケーションコース
（2）英語コミュニケーションコースの履修モデル
（3）アジア太平洋コース
（4）アジア太平洋コースの履修モデル

❹2023年度 国際学部開設科目一覧表（カリキュラムマップ）……24
（1）共通教育科目一覧表
（2）国際学部国際学科専門教育科目一覧表

❺カリキュラムツリー……32

❻初年次教育……34
初年次教育

❼英語教育……35
（1）英語教育の考え方
（2）英語運用能力の到達目標（TOEIC®）と到達指標（CEFR-J）

❽留学生の皆さんへ……37

❾キャリア形成のための科目……40

❿共通教育科目……42
（1）外国語科目（国際学部）
（2）教養科目

⓫数理・データサイエンス・AI教育プログラム……44
（1）数理・データサイエンス・AI教育プログラムについて
（2）数理・データサイエンス・AI教育プログラムの学修目標
（3）対象学生と履修方法
（4）プログラムの構成科目と修了要件

⓬国際教育プログラム（海外語学研修、フィールド・プロジェクト、英語圏1セメスター留学、交換留学）……45
（1）英語コミュニケーションコース
（2）アジア太平洋コース
（3）海外語学研修
（4）フィールド・プロジェクト
（5）英語圏1セメスター留学
（6）交換留学

⓭資格取得について……48
（1）資格取得のすすめ
（2）技能資格の単位認定

⓮単位互換履修生……51

Ⅱ 編入学生履修案内

❶編入学生履修案内……53
（1）学修における注意点　（2）履修制限単位　（3）卒業要件（2023年度編入学生）
国際学部 国際学科 卒業要件
（1）共通教育科目　（2）専門教育科目　（3）その他共通教育科目又は専門教育科目

資　料

大阪経済法科大学学則……58
大阪経済法科大学国際学部履修規程……68

建学の理念・本学の教育目的

（1）建学の理念

「経済と法律、二つの学問の修得による人格の形成」
「実学の精神を持った人材の育成」
「人権の伸長と国際平和への貢献」

建学の理念は、創立者金澤尚淑博士の信念に基づくものです。

金澤博士は、経済学と法学の両方を学び、その後、実業界に身を投じ、経済と経営に通暁するにつれ、法律に対する精確な認識が不可欠なことをあらためて確信しました。

金澤博士は、知識基盤社会の到来を予測して、学ぶ意欲を持ち、そのための努力を惜しまない者すべてに門戸が開かれた高等教育の実現に向けて尽力し、1971年1月27日、学校法人大阪経済法律学園を設立し、同年4月、大阪府八尾市に経済学部と法学部の2学部からなる大阪経済法科大学を開設しました。

本学園はグローバル化する現代社会の中で、教育研究を通じた人権の伸長と国際平和への貢献に力を注ぎ、海外の大学・研究機関と幅広いネットワークを築き上げてきました。2016年4月、これらの経験をふまえて、新たに国際学部を設置しました。また、2019年4月には経済学部経営学科を改組して経営学部を設置し、4学部を擁する社会科学系総合大学へと発展しています。

本学園は、建学の理念を、「学校法人大阪経済法律学園寄附行為」前文に、次のように定めています。

> 創立者金澤尚淑博士は、「経済と法律が社会の両輪であり、この二つの学問を修めることによって無類の人格を形成することができる。」との信念に従い、万人に開かれた高等教育の実現を目指し、幾多の苦難を乗り越えて、一九七一年（昭和四十六年）に学校法人大阪経済法律学園を設立した。本学園は、創立者の建学の理念に基づき、広く知識を教授し、実践の中から真理を探究する実学の精神を持った人材の育成を行うとともに、教育研究を通じて人権の伸長と国際平和に貢献することを使命とする。

（2）本学の教育目的

本学は建学の理念に基づき、大学の使命及び目的に関連して、「大阪経済法科大学学則」第1条に次のように定めています。

> 本大学は、教育基本法及び学校教育法に則り、建学の理念に基づいて、広く知識を授け、深く専門の学芸を教授研究するとともに、豊かな人間性と国際感覚にあふれた独創的で実践力に富む人材を育成し、もって社会の発展と平和に貢献することを使命とする。

本学は、この教育目的にそって、学生の皆さんに対し専門教育並びに教養教育を行っています。経済学部経済学科は、「経済学を中心とする幅広い専門知識と経済学的思考能力を有し、内外の経済情勢の変化を踏まえつつ、経済社会が直面する諸問題を理解し、実学の精神を持って、グローバル化する現代社会の諸課題に創造的に対応できる人材の育成を目指して、教育研究を行う。」（学則第2条第2項（1））、経営学部経営学科は、「経営学を中心とする幅広い専門知識と多様な応用能力を修得し、技術革新やグローバル化の進展によって産業や社会システムが変化する中で、実践的な課題解決力を備え、現代ビジネスの諸課題に主体的・創造的に対応できる人材の育成を目指して、教育研究を行う。」（学則第2条第2項（2））、法学部法律学科は、「基礎的な法学教育を土台として、法学を中心とした高度な専門知識を授け、正義と公平を旨とするリーガルマインドをもって現代社会の諸課題に積極的に取り組む市民の育成を目指して、教育研究を行う。」（同第2条第2項（3））、国際学部国際学科は、「異文化理解と多文化共生を育み、豊かな国際感覚と優れたコミュニケーション能力を身につけるとともに、幅広い教養と専門性を備え、チームワークとリーダーシップをもって、国際的なビジネス・市民社会で活躍できる人材の養成を目指して、教育研究を行う。」（同第2条第2項（4））こととしています。

本学の使命及び目的は、学生の皆さんが本学での学生生活を通じて専門知識と幅広い教養及び就業力を身につけ、グローバル化・情報化が進む社会において、自らの能力と個性を発揮して活躍することができるように、教育と環境を提供することです。

学位授与の方針（DP）、教育課程の編成・実施の方針（CP）

学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー、DP）及び教育課程の編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー、CP）については、中央教育審議会大学分科会大学教育部会が平成28年3月31日に発表した「『卒業認定・学位授与の方針』（ディプロマ・ポリシー）、『教育課程編成・実施の方針』（カリキュラム・ポリシー）及び『入学者受入れの方針』（アドミッション・ポリシー）の策定及び運用に関するガイドライン」において、以下のように説明されています。

学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー、DP）

各大学、学部・学科等の教育理念に基づき、どのような力を身に付けた者に卒業を認定し、学位を授与するのかを定める基本的な方針であり、学生の学修成果の目標ともなるもの。

教育課程の編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー、CP）

ディプロマ・ポリシーの達成のために、どのような教育課程を編成し、どのような教育内容・方法を実施し、学修成果をどのように評価するのかを定める基本的な方針。

これらの方針を策定する意義として、学生の皆さんにとっては、自らの学ぶ教育課程の目標や構造などを十分に理解した上で、個々の学修活動に自覚的に取り組むことで、学問に主体的に向き合い、より密度の濃い学修成果を得ることが可能となります。

これらの方針を念頭において、本学における学修を進め、希望進路を実現することを期待しています。

国際学部国際学科の学位授与の方針（DP）

国際学部国際学科は、「異文化理解と多文化共生を育み、豊かな国際感覚と優れたコミュニケーション能力を身につけるとともに、幅広い教養と専門性を備え、チームワークとリーダーシップをもって、国際的なビジネス・市民社会で活躍できる人材の育成を目指して、教育研究を行う」。この教育研究上の目的に鑑み、学士課程を通じて以下の能力を身につけている学生に対して「学士（国際学）」の学位を授与する。

1. グローバリゼーションにより相互依存を深める現代社会の諸課題を理解する観点から、歴史、政治、経済、経営、文化、社会等の幅広い分野における基礎的知識及び英語・日本語運用能力を修得するとともに、各コースにおいて求められる専門的な知識・技能を身につけている。
   （1）英語コミュニケーションコース：国際通用性のある英語能力を中心としたコミュニケーション能力を修得するとともに、社会や文化の知識を用いて、グローバル・イシュー及び各国・地域の諸課題を把握し、課題解決に向けて取り組む力を身につけている。
   （2）アジア太平洋コース：アジア太平洋地域に関する現状と歴史の理解を土台に、国際政治及び国際経済・経営の知識や理論を用いて、日本を含むアジア太平洋地域の諸課題やそれらが日本並びに国際社会に与える影響を分析・思考する力を身につけている。
2. 国際社会の多様性を尊重しつつ、異文化理解と多文化共生の精神を育み、豊かな国際感覚と自己のアイデンティティをもって行動する力を身につけている。
3. 異なる価値観や文化的背景をもつ他者と協働しながらリーダーシップを発揮し、グローバル社会の一員として活躍できる能力と生涯にわたる就業力を身につけている。
4. 情報処理や語学等に関する基本的な知識・技能とともに、現代社会で起きている様々な事象をグローバルかつローカルな視点から考えることができる幅広い教養を身につけている。

国際学部国際学科の教育課程の編成・実施の方針（CP）

国際学部国際学科は、学位授与の方針に基づき、以下のとおり教育課程の編成・実施の方針を定める。

1. コースの設定

各自の興味・関心、将来の進路志望を踏まえた2コースを設定し、その中から2年次に1つのコースを選択して主体的に専門的・順次的学修を行えるよう、専門科目を配置する。

（1）英語コミュニケーションコース

国際通用性のある英語能力を中心としたコミュニケーション能力を修得するとともに、社会や文化の知識を用いて、グローバル・イシュー及び各国・地域の諸課題を把握し、課題解決に向けて取り組む力を身につけるために、外国語発展分野、コミュニケーション分野、社会・文化分野、観光・ホスピタリティ分野の科目を中心に学修する。

Ⅰ 国際教育学部 国際学課程

（2）アジア太平洋コース
　アジア太平洋地域に関する現状と歴史の理解を土台に、国際政治及び国際経済・経営の知識や理論を用いて、日本を含むアジア太平洋地域の諸課題やそれらが日本並びに国際社会に与える影響を分析・思考する力を身につけるために、各国・地域事情分野、アジア太平洋地域研究分野、SDGs関連分野、国際関係分野、国際経済分野、国際経営分野の科目を中心に学修する。

2. 順次性に基づく教育課程

　学生が基礎から応用へと順次性に基づき専門学修を進めていくことができるように、以下のカリキュラムを編成する。
（1）必修外国語科目
　英語運用能力の基礎を固めるための英語科目を配置し、必修科目とする。また、外国人留学生については、日本語運用能力を高める日本語科目を配置し、日本語運用能力に応じて、日本語科目又は英語科目の選択必修とする。
（2）専門基礎科目
　国際学の基礎的知識を修得する科目である「国際学基礎A」と「国際学基礎B」を必修科目とする。また、国際学部での専門学修の基礎形成に資する情報、歴史、言語、社会、文化、政治、経済、経営等に関する基礎科目を配置し、選択必修科目とする。また、情報処理において必要となる基礎的な知識・技能を身につけるため、「情報処理基礎」及び「データサイエンス基礎」を必修科目とする。
（3）専門発展科目
　学生個々の興味や将来の進路に対応した専門的な知識・技能を学修するため、外国語発展、コミュニケーション、社会・文化、観光・ホスピタリティ、各国・地域事情、アジア太平洋地域研究、SDGs関連、国際関係、国際経済、国際ビジネスに関する専門発展科目を配置し、その中から、コースごとに必修科目または選択必修科目を設定する。
（4）演習・卒業論文
　1～4年次に演習科目を配置し、国際学の知識や技能、論理的思考方法等について、基礎から応用へと順次性に基づき学修を進めることができるようにする。また、学生の興味・関心、将来の進路志望に合わせて専攻分野、テーマを選択し、学士課程の集大成として卒業論文を執筆することができるように指導する。基礎演習A・B、専門演習ⅠA・B及び専門演習ⅡA・Bは履修指定科目とし、専門演習ⅢA・Bは必修科目とする。
（5）留学・体験科目
　留学・海外体験を国際学部教育の重要な柱として位置付け、短期の語学研修やフィールド・プロジェクト、中長期の留学（英語圏1セメスター留学および交換留学）に対応する科目を配置し、選択必修科目とする。
（6）キャリア形成科目
　学生が卒業後自らの資質を向上させ、社会的及び職業的自立を図るために必要な能力を身につけられるようキャリア形成科目を配置する。
（7）共通教育科目
　国際学部における専門教育とともに、情報処理や語学等に関する基本的な知識・技能や、現代社会で起きている様々な事象をグローバルかつローカルな視点から考えることができる幅広い教養を身につけるために必要な科目群を共通教育科目として配置する。

3. 学修方法・学修過程

　各科目の学修目的に応じて、学修方法・学修過程を定める。
（1）理論学修と合わせて、ディスカッション、グループワーク、プレゼンテーションなど、アクティブラーニングを効果的に取り入れる。
（2）少人数教育、ICTなどの教育支援ツールを使用した学修空間を形成する。
（3）一般学生及び留学生が学び合いを通じて、相互理解・交流を深める国際共修を推進するとともに、短期および中長期の海外体験・留学の積極的な参加を促し、異文化理解と多文化共生を育む教育機会を提供する。
（4）学修の成果を発表する機会（学生研究発表大会など）を設定し、自身の学修・研究を深める重要な機会とするとともに、多様な交流活動を通して、異なる価値観や文化的背景をもつ他者を理解し、尊重し、協働しながら、自己表現することの大切さを学ぶ機会を設ける。

4. 学修成果の評価

（1）各科目の学修成果の評価は、授業への出席・参加状況のほか、中間試験、レポート、定期試験など、各シラバスに定める成績評価の方法・基準に基づき行う。
（2）卒業までの教育課程を通じた学修成果の評価は、各科目の成績、修得単位数、GPA、卒業論文、英語外部試験、取得資格及び進路等により総合的に行う。

1 卒業要件（2023年度入学生）

国際学部 国際学科 卒業要件

授業科目	卒業に要する単位	
共通教育科目	14単位以上	
専門教育科目	○必修要件 ・必修外国語において、英語8科目16単位を修得すること。ただし、外国人留学生は、当該英語科目に係る必修要件を、日本語１、日本語２、日本語３、日本語４、日本語５、日本語６、日本語７、日本語８の8科目16単位の修得をもって満たすことができる。 ・専門基礎科目において、国際学基礎A、国際学基礎B、情報処理基礎、データサイエンス基礎の4科目8単位を含む24単位以上を修得すること。 ・英語コミュニケーションコースを選択した者は、専門発展科目において、「外国語発展」「コミュニケーション」「社会・文化」「観光・ホスピタリティ」区分の科目から、Advanced English Ⅲ、Advanced English Ⅳの2科目4単位を含む24単位以上を修得すること。ただし、外国人留学生は、Advanced English Ⅲ、Advanced English Ⅳに係る必修要件を、日本語９、日本語１０の2科目4単位の修得をもって満たすことができる。 ・アジア太平洋コースを選択した者は、専門発展科目において、「各国・地域事情」「アジア太平洋地域研究」「SDGs関連」「国際関係」「国際経済」「国際ビジネス」区分の科目から、「各国・地域事情」のうち1科目2単位、「アジア太平洋地域研究」のうち1科目2単位、「SDGs関連」のうち1科目2単位、計6単位を含む24単位以上を修得すること。 ・演習科目において、専門演習ⅢA、専門演習ⅢBの2科目4単位を修得すること。 ・留学・体験科目において、1科目2単位以上を修得すること。	90単位以上
その他共通教育科目又は専門教育科目	○共通教育科目及び専門教育科目から20単位 ○技能資格等に関する単位は、「その他共通教育科目又は専門教育科目」の卒業に要する単位にのみ算入できる。	20単位以上
合　計		124単位

(1) 共通教育科目

○卒業するには、共通教育科目より、14単位以上修得すること。

(2) 専門教育科目

○卒業するには、専門教育科目より、90単位以上修得すること。ただし、次の各要件を満たすこと。

必修外国語

○必修外国語において、英語8科目16単位を修得すること。ただし、外国人留学生は、当該英語科目に係る必修要件を、日本語１、日本語２、日本語３、日本語４、日本語５、日本語６、日本語７、日本語８の8科目16単位の修得をもって満たすことができる。

英語	
Intensive English W/R Ⅰ	Advanced English W/R Ⅰ
Intensive English W/R Ⅱ	Advanced English W/R Ⅱ
Intensive English L/S Ⅰ	Advanced English L/S Ⅰ
Intensive English L/S Ⅱ	Advanced English L/S Ⅱ

or

留学生日本語	
日本語１	日本語５
日本語２	日本語６
日本語３	日本語７
日本語４	日本語８

専門基礎科目

○専門基礎科目において、国際学基礎A、国際学基礎B、情報処理基礎、データサイエンス基礎の4科目8単位を含む24単位以上を修得すること。

必修科目（4科目8単位必修）
国際学基礎A
国際学基礎B
情報処理基礎
データサイエンス基礎

＋

選択必修（8科目16単位以上）		
ビジネスアプリケーション	コミュニケーション論	国際政治学Ⅰ
Exam Prep. Ⅰ	異文化コミュニケーション	国際政治学Ⅱ
Exam Prep. Ⅱ	ことばと社会	国際社会と法
Exam Prep. Ⅲ	異文化理解	日本と国際法
世界史概論	国際社会学	国際経済基礎
日本史概論	世界の宗教	国際経済概論
ジェンダー論	観光概論	国際経営基礎
Current World Events Ⅰ		国際ビジネス概論

＝24単位以上

専門発展科目

●英語コミュニケーションコース

○英語コミュニケーションコースを選択した者は、専門発展科目において、「外国語発展」「コミュニケーション」「社会・文化」「観光・ホスピタリティ」区分の科目から、Advanced English Ⅲ、Advanced English Ⅳの2科目4単位を含む24単位以上を修得すること。ただし、外国人留学生は、Advanced English Ⅲ、Advanced English Ⅳに係る必修要件を、日本語９、日本語10の2科目4単位の修得をもって満たすことができる。

24単位以上選択必修	
2科目4単位必修	
Advanced English Ⅲ Advanced English Ⅳ or （留学生日本語） 日本語９ 日本語10	＜外国語発展＞ Exam Prep. Ⅳ、Exam Prep. Ⅴ、Exam Prep. Ⅵ、Current World Events Ⅱ、Global Issues Ⅰ、Global Issues Ⅱ、Readings for International Studies Ⅰ、Readings for International Studies Ⅱ、Global Citizen's Project、Business Communication Ⅰ、Business Communication Ⅱ、English for Tourism、翻訳実践、通訳実践 ＜コミュニケーション＞ コミュニケーション技法Ⅰ、コミュニケーション技法Ⅱ、アカデミックライティング、テクニカルライティング、プレゼンテーション実践 ＜社会・文化＞ 比較文化論、多文化共生社会論、Japanese Culture、Cultural Studies、Multicultural Society、International Migration、言語習得と文化、多言語社会と言語政策、言語文化論、Language and Culture ＜観光・ホスピタリティ＞ 観光資源論、国際観光論、ホスピタリティ論、航空実務、航空経済論、Tourism and World Heritages

●アジア太平洋コース

○アジア太平洋コースを選択した者は、専門発展科目において、「各国・地域事情」「アジア太平洋地域研究」「SDGs関連」「国際関係」「国際経済」「国際ビジネス」区分の科目から、「各国・地域事情」のうち1科目2単位、「アジア太平洋地域研究」のうち1科目2単位、「SDGs関連」のうち1科目2単位、計6単位を含む24単位以上を修得すること。

24単位以上選択必修			
2単位以上選択必修	2単位以上選択必修	2単位以上選択必修	
＜各国・地域事情＞ 現代日本事情 現代中国事情 現代アメリカ事情 現代東南アジア事情	＜アジア太平洋地域研究＞ アジア太平洋地域研究A アジア太平洋地域研究B アジア太平洋地域研究C アジア太平洋地域研究D	＜SDGs関連＞ SDGs特別講義A SDGs特別講義B SDGs特別講義C	＜国際関係＞ 比較政治学、国際関係論、対外政策論、政治地理学、国際協力法、安全保障と国際法、国際人権法、海洋法･国際環境法、比較税制論、NPO・NGO論、地方自治と国際協力、比較法、Introduction to International Law ＜国際経済＞ 国際経済学Ⅰ、国際経済学Ⅱ、環境経済論、開発経済論、比較経済論、Contemporary Economic Issues ＜国際ビジネス＞ 経営管理論、経営戦略論、経営組織論、人的資源管理論、マーケティング論、経営情報論、流通システム論、企業の社会的責任論、会計学、アントレプレナーシップ論、Business Management、貿易実務

演習科目

○演習科目において、「専門演習ⅢA」、「専門演習ⅢB」の2科目4単位を修得すること。

専門演習ⅢA　専門演習ⅢB

留学・体験科目

○留学・体験科目において1科目2単位以上を修得すること。

留学・体験科目（1科目2単位選択必修）			
海外語学研修A 海外語学研修B 海外語学研修C 海外語学研修D	国際英語研修A 国際英語研修B 国際英語研修C 国際英語研修D 国際英語研修E 国際英語研修F 国際英語研修G 国際英語研修H ※1	国際教養研修A 国際教養研修B 国際教養研修C 国際教養研修D 国際教養研修E 国際教養研修F 国際教養研修G 国際教養研修H ※2	フィールド・プロジェクトA フィールド・プロジェクトB フィールド・プロジェクトC

※1 国際英語研修A～Hは、英語圏１セメスター留学に参加し、留学先で履修したプログラムに合格すること等により、いずれかの単位が認定されます。
※2 国際教養研修A～Hは、交換留学に参加し、留学先で履修した科目の単位を修得すること等により、いずれかの単位が認定されます。

(3) その他共通教育科目又は専門教育科目

○卒業するには、その他（共通教育科目及び専門教育科目）より20単位以上修得すること。

共通教育科目（14単位）＋専門教育科目（90単位）＋その他共通教育科目又は専門教育科目（20単位）＝124単位

2 国際学部国際学科カリキュラムの概要

●国際学部国際学科カリキュラムの概要は次のとおりです。

専門基礎科目

英語コミュニケーションコース	（1）グローバル企業モデル （2）英語専門職モデル （3）観光ホスピタリティモデル
アジア太平洋コース	（1）国際政治モデル （2）国際経済モデル （3）国際ビジネスモデル

◆国際学部での学び◆

COVID-19や気候危機という新たな脅威の登場と国家間紛争や円安といった脅威が並存する新たなグローバリゼーションに至るなかで、日本および世界で活躍するためには、世界が（国・政府・企業・市民・国際機関等が）どう動いていくのかを読み解く力が必要となります。そのためには、諸国の法・政治・経済制度、そして国際社会のルールや制度に加え、各国市民が持つ価値観である文化などの理解を有機的に結び付け思考する力が求められます。

国際学部はこの思考力を身につけるために、1年次に「専門基礎科目」で基礎的な専門知識を修得し、2年次以降に発展的な専門知識を学際的に学修します。また、将来の進路に対応した2つのコース、「英語コミュニケーションコース」、「アジア太平洋コース」に基づいて、専門的・順次的な学修を行います。そして、4年間の演習の中で、思考力に磨きをかけて、卒業研究に取り組み、学修の集大成として卒業論文を完成させます。

(1) 必修外国語

世界の動き（国際ニュース等）を外国語で読み理解し意見できるよう、1年次から2年次にかけて8科目16単位の必修科目を履修し、英語もしくは留学生の場合は日本語の4技能（「聞く」「話す」「読む」「書く」）を身に付けていきます。

Intensive English W/R Ⅰ、Intensive English W/R Ⅱ、Intensive English L/S Ⅰ、Intensive English L/S Ⅱ、
Advanced English W/R Ⅰ、Advanced English W/R Ⅱ、Advanced English L/S Ⅰ、Advanced English L/S Ⅱ
＜留学生科目＞
日本語１、日本語２、日本語３、日本語４、日本語５、日本語６、日本語７、日本語８

(2) 専門基礎科目

専門基礎科目は、「国際社会を読みとき思考・判断する力」を身につけるための基礎知識、基礎的なICTスキルの修得と国際社会における諸問題への関心を高めることを目的に開講されている科目群です。1年次春学期から2年次の春学期における履修の中心科目となります。

国際学基礎A（必修）、国際学基礎B（必修）、情報処理基礎（必修）、データサイエンス基礎（必修）、
ビジネスアプリケーション、Exam Prep. Ⅰ、Exam Prep. Ⅱ、Exam Prep. Ⅲ、世界史概論（履修指定）、日本史概論、
ジェンダー論、Current World Events Ⅰ、コミュニケーション論、異文化コミュニケーション、ことばと社会、
異文化理解、国際社会学、世界の宗教、観光概論、国際政治学Ⅰ、国際政治学Ⅱ、国際社会と法、日本と国際法、
国際経済基礎、国際経済概論、国際経営基礎、国際ビジネス概論

(3) コース制と履修モデル

国際学部では、皆さんの関心や進路にあわせて計画的に履修できるよう、コース制を採用し、具体的にどのような科目を中心に、どのような順序で履修したらよいかを履修モデルとして提示しています。4年次にどのようなテーマで卒業論文を執筆したいか、将来どのような職業に就きたいのかなどをじっくり考え、そのために必要な科目を履修するように心掛けてください。卒業要件として、コースごとに定める科目区分から24単位以上修得する必要があります。

各コースでは、それぞれ3つの履修モデルを設定しています。次ページ以降では、コースと履修モデルを説明します。

3 各コースの概要と履修モデル

(1) 英語コミュニケーションコース

1. 目的

英語コミュニケーション力を駆使して、グローバル・イシューや各国・地域事情（いま世界で何が起きているか、なぜ起きているか）についての幅広い教養と知識を身につけるとともに、国際社会における諸課題を、ディスカッション、エッセイ・プレゼンテーションなど英語を通じて思考することにより、視野の拡大、異文化や多様性の理解、グローバル・エシックスの修得を目的とします。

2. 修得する知識・能力

・ディスカッション、エッセイ、プレゼンテーションなど高度な英語運用能力を通じて思考することにより、視野の拡大、異文化や多様性の理解を実現する。キャリアパスとして活用できる高度な英語運用能力を身に付けている。
・言語や社会、文化の知識を用いて、グローバル・イシューや各国・地域の諸問題を把握することができる。
・このような積極的で柔軟な思考力をもって、日本社会及び国際社会の課題を主体的に発見し、課題解決にむけて意欲的に取組む行動力を修得している。

3. 履修モデルと想定する進路

・グローバル企業モデル：外資系企業、多国籍企業、一般企業海外交渉部門等
・英語専門職モデル：国際秘書、通訳案内士、翻訳業等
・観光ホスピタリティモデル：運輸業・航空業（客室乗務員、グランドスタッフ含む）、旅行・観光業、ホテル業等

各コースの概要と履修モデル 3

国際学部 国際学科 教育課程
3 各コースの概要と履修モデル

(2) 英語コミュニケーションコースの履修モデル

①グローバル企業モデル

		1年次		2年次			3年次		4年次	
		春学期	秋学期	春学期	秋学期		春学期	秋学期	春学期	秋学期
必修外国語※1		Intensive English W/R Ⅰ Intensive English L/S Ⅰ	Intensive English W/R Ⅱ Intensive English L/S Ⅱ	Advanced English W/R Ⅰ Advanced English L/S Ⅰ	Advanced English W/R Ⅱ Advanced English L/S Ⅱ					
専門基礎科目		国際学基礎A 国際学基礎B 情報処理基礎 Exam Prep. Ⅰ 世界史概論	データサイエンス基礎 Exam Prep. Ⅱ 異文化理解 国際社会学 日本史概論 観光概論 コミュニケーション論 国際政治学Ⅰ 国際社会と法 国際経済基礎 国際経営基礎 いずれか2科目選択	ビジネスアプリケーション Exam Prep. Ⅲ 世界の宗教 異文化コミュニケーション ジェンダー論 Current World Events Ⅰ ことばと社会 国際政治学Ⅱ 日本と国際法 国際経済概論 国際ビジネス概論 いずれか2科目選択					
専門発展科目	外国語発展				Exam Prep. Ⅳ Current World Events Ⅱ Global Issues Ⅰ		Advanced English Ⅲ※2 Exam Prep. Ⅴ Global Issues Ⅱ Readings for International Studies Ⅰ	Advanced English Ⅳ※2 Exam Prep. Ⅵ Readings for International Studies Ⅱ Business Communication Ⅰ	Global Citizen's Project Business Communication Ⅱ	
	コミュニケーション									
	社会・文化				比較文化論 多文化共生社会論 いずれか1科目選択		Japanese Culture Multicultural Society いずれか1科目選択	Cultural Studies International Migration いずれか1科目選択		
	観光・ホスピタリティ									
演習・卒業論文		基礎演習A	基礎演習B	専門演習ⅠA	専門演習ⅠB		専門演習ⅡA	専門演習ⅡB	専門演習ⅢA	専門演習ⅢB 卒業論文
キャリア形成科目		国際キャリア開発A	国際キャリア開発B	国際キャリアデザインA	国際キャリアデザインB		国際キャリア演習A	国際キャリア演習B		

②英語専門職モデル

		1年次		2年次			3年次		4年次	
		春学期	秋学期	春学期	秋学期		春学期	秋学期	春学期	秋学期
必修外国語※1		Intensive English W/R Ⅰ Intensive English L/S Ⅰ	Intensive English W/R Ⅱ Intensive English L/S Ⅱ	Advanced English W/R Ⅰ Advanced English L/S Ⅰ	Advanced English W/R Ⅱ Advanced English L/S Ⅱ					
専門基礎科目		国際学基礎A 国際学基礎B 情報処理基礎 Exam Prep. Ⅰ 世界史概論	データサイエンス基礎 Exam Prep. Ⅱ コミュニケーション論 異文化理解 日本史概論 観光概論 国際社会学 国際政治学Ⅰ 国際社会と法 国際経済基礎 国際経営基礎 いずれか2科目選択	ビジネスアプリケーション Exam Prep. Ⅲ Current World Events Ⅰ ことばと社会 異文化コミュニケーション ジェンダー論 世界の宗教 国際政治学Ⅱ 日本と国際法 国際経済概論 国際ビジネス概論 いずれか2科目選択					
専門発展科目	外国語発展				Exam Prep. Ⅳ Current World Events Ⅱ Global Issues Ⅰ いずれか1科目選択		Advanced English Ⅲ※2 Exam Prep. Ⅴ Global Issues Ⅱ Readings for International Studies Ⅰ いずれか1科目選択 翻訳実践	Advanced English Ⅳ※2 Exam Prep. Ⅵ Readings for International Studies Ⅱ Business Communication Ⅰ 通訳実践 いずれか1科目選択	Global Citizen's Project Business Communication Ⅱ いずれか1科目選択	
	コミュニケーション				コミュニケーション技法Ⅰ コミュニケーション技法Ⅱ		テクニカルライティング	アカデミックライティング	プレゼンテーション実践	
	社会・文化						言語習得とバイリンガリズム いずれか1科目選択	多言語社会と言語政策 言語文化論 いずれか2科目選択	Language and Culture いずれか1科目選択	
	観光・ホスピタリティ									
演習・卒業論文		基礎演習A	基礎演習B	専門演習ⅠA	専門演習ⅠB		専門演習ⅡA	専門演習ⅡB	専門演習ⅢA	専門演習ⅢB 卒業論文
キャリア形成科目		国際キャリア開発A	国際キャリア開発B	国際キャリアデザインA	国際キャリアデザインB		国際キャリア演習A	国際キャリア演習B		

※各科目の開講学期は変更になる場合があります。

※1　ただし、外国人留学生は、当該英語科目に係る必修要件を、「日本語1」、「日本語2」、「日本語3」、「日本語4」、「日本語5」、「日本語6」、「日本語7」、「日本語8」の8科目16単位の修得をもって満たすことができる。

※2　コース必修科目。ただし、外国人留学生は、当該英語科目に係る必修要件を「日本語9」、「日本語10」の2科目4単位の修得をもって満たすことができる。

③観光ホスピタリティモデル

		1年次		2年次			3年次		4年次	
		春学期	秋学期	春学期	秋学期		春学期	秋学期	春学期	秋学期
必修外国語※1		Intensive English W/R Ⅰ Intensive English L/S Ⅰ	Intensive English W/R Ⅱ Intensive English L/S Ⅱ	Advanced English W/R Ⅰ Advanced English L/S Ⅰ	Advanced English W/R Ⅱ Advanced English L/S Ⅱ					
専門基礎科目		国際学基礎A 国際学基礎B 情報処理基礎 Exam Prep. Ⅰ 世界史概論	データサイエンス基礎 Exam Prep. Ⅱ 観光概論 異文化理解 日本史概論 コミュニケーション論 国際社会学 国際政治学Ⅰ 国際社会と法 国際経済基礎 国際経営基礎 いずれか2科目選択	ビジネスアプリケーション Exam Prep. Ⅲ Current World Events Ⅰ 世界の宗教 ジェンダー論 ことばと社会 異文化コミュニケーション 国際政治学Ⅱ 日本と国際法 国際経済概論 国際ビジネス概論 いずれか2科目選択					
専門発展科目	外国語発展				Exam Prep. Ⅳ Current World Events Ⅱ Global Issues Ⅰ いずれか1科目選択 English for Tourism		Advanced English Ⅲ※2 Exam Prep. Ⅴ Global Issues Ⅱ Readings for International Studies Ⅰ 翻訳実践 いずれか1科目選択	Advanced English Ⅳ※2 Exam Prep. Ⅵ Readings for International Studies Ⅱ Business Communication Ⅰ 通訳実践 いずれか1科目選択		
	コミュニケーション									
	社会・文化									
	観光・ホスピタリティ				ホスピタリティ論		観光資源論 航空実務 いずれか1科目選択	国際観光論 航空経済論 いずれか1科目選択	Tourism and World Heritages	
演習・卒業論文		基礎演習A	基礎演習B	専門演習ⅠA	専門演習ⅠB		専門演習ⅡA	専門演習ⅡB	専門演習ⅢA	専門演習ⅢB 卒業論文
キャリア形成科目		国際キャリア開発A	国際キャリア開発B	国際キャリアデザインA	国際キャリアデザインB		国際キャリア演習A	国際キャリア演習B		

※各科目の開講学期は変更になる場合があります。

※1　ただし、外国人留学生は、当該英語科目に係る必修要件を、「日本語1」、「日本語2」、「日本語3」、「日本語4」、「日本語5」、「日本語6」、「日本語7」、「日本語8」の8科目16単位の修得をもって満たすことができる。

※2　コース必修科目。ただし、外国人留学生は、当該英語科目に係る必修要件を「日本語9」、「日本語10」の2科目4単位の修得をもって満たすことができる。

(3) アジア太平洋コース

1. 目的

政治経済およびビジネス活動の観点から重要度が一層高まるアジア太平洋地域に関する現状と歴史的理解を土台に、国際政治および国際経済・経営の知識や理論から、日本を含むアジア太平洋地域の諸問題、さらに日本社会・企業に与える影響を理解し分析することができる力を身につけることを目的とします。

2. 修得する知識・能力

・アジア太平洋地域に関する現状と歴史の理解を土台に、国際政治および国際経済・経営の知識や理論から、日本を含むアジア太平洋地域の諸課題、さらに日本社会・企業に与える影響を理解し分析することができる。
・人権、移民、平和、環境保全、開発といったサステナビリティの問題もグローバルな視点から思考することができる。
・外国語運用能力（英語に加え、研究対象として選択した地域に応じて中国語、韓国語等も履修）や情報利活用能力を駆使し、柔軟な思考力と行動力を発揮することができる。

3. 履修モデルと想定する進路

・国際政治モデル：国際機関職員（大学院進学）、公務員、NGO/NPO等
・国際経済モデル：国際的業務展開を行っている企業、公務員、経済協力機関職員（大学院進学）等
・国際ビジネスモデル：アジアを中心に業務展開を行っている日本企業、商社・貿易（通関業務含む）・金融業等

(4) アジア太平洋コースの履修モデル

①国際政治モデル

		1年次		2年次			3年次		4年次	
		春学期	秋学期	春学期	秋学期		春学期	秋学期	春学期	秋学期
必修外国語※1		Intensive English W/R Ⅰ Intensive English L/S Ⅰ	Intensive English W/R Ⅱ Intensive English L/S Ⅱ	Advanced English W/R Ⅰ Advanced English L/S Ⅰ	Advanced English W/R Ⅱ Advanced English L/S Ⅱ					
専門基礎科目		国際学基礎A 国際学基礎B 情報処理基礎 Exam Prep. Ⅰ 世界史概論	データサイエンス基礎 Exam Prep. Ⅱ 国際政治学Ⅰ 国際社会と法 日本史概論 観光概論 コミュニケーション論 異文化理解 国際社会学 国際経済基礎 国際経営基礎 いずれか2科目選択	Exam Prep. Ⅲ 国際政治学Ⅱ 日本と国際法 ビジネスアプリケーション ジェンダー論 Current World Events Ⅰ ことばと社会 世界の宗教 異文化コミュニケーション 国際経済概論 国際ビジネス概論 いずれか2科目選択	Exam Prep. Ⅳ		Exam Prep. Ⅴ	Exam Prep. Ⅵ		
専門発展科目	各国・地域事情				現代日本事情 現代中国事情 現代アメリカ事情 現代東南アジア事情					
	アジア太平洋地域研究						アジア太平洋地域研究A	アジア太平洋地域研究B	アジア太平洋地域研究C	アジア太平洋地域研究D いずれか1科目選択
	SDGs特別講義				SDGs特別講義A		SDGs特別講義B	SDGs特別講義C いずれか1科目選択		
	国際関係 国際経済 国際ビジネス				比較政治学 国際協力法 比較法		国際関係論 安全保障と国際法 比較税制論 地方自治と国際協力 環境経済論	対外政策論 国際人権法 NPO・NGO論 いずれか2科目選択 開発経済論	政治地理学 海洋法・国際環境法	Introduction to International Law いずれか2科目選択
演習・卒業論文		基礎演習A	基礎演習B	専門演習ⅠA	専門演習ⅠB		専門演習ⅡA	専門演習ⅡB	専門演習ⅢA	専門演習ⅢB 卒業論文
キャリア形成科目		国際キャリア開発A	国際キャリア開発B	国際キャリアデザインA	国際キャリアデザインB		国際キャリア演習A	国際キャリア演習B		

②国際経済モデル

		1年次		2年次			3年次		4年次	
		春学期	秋学期	春学期	秋学期		春学期	秋学期	春学期	秋学期
必修外国語※1		Intensive English W/R Ⅰ Intensive English L/S Ⅰ	Intensive English W/R Ⅱ Intensive English L/S Ⅱ	Advanced English W/R Ⅰ Advanced English L/S Ⅰ	Advanced English W/R Ⅱ Advanced English L/S Ⅱ					
専門基礎科目		国際学基礎A 国際学基礎B 情報処理基礎 Exam Prep. Ⅰ 世界史概論	データサイエンス基礎 Exam Prep. Ⅱ 国際経済基礎 国際経営基礎 日本史概論 観光概論 コミュニケーション論 異文化理解 国際社会学 国際政治学Ⅰ 国際社会と法 いずれか2科目選択	Exam Prep. Ⅲ 国際経済概論 国際ビジネス概論 ビジネスアプリケーション ジェンダー論 Current World Events Ⅰ ことばと社会 世界の宗教 異文化コミュニケーション 国際政治学Ⅱ 日本と国際法 いずれか2科目選択	Exam Prep. Ⅳ		Exam Prep. Ⅴ	Exam Prep. Ⅵ		
専門発展科目	各国・地域事情				現代日本事情 現代中国事情 現代アメリカ事情 現代東南アジア事情					
	アジア太平洋地域研究						アジア太平洋地域研究A	アジア太平洋地域研究B	アジア太平洋地域研究C	アジア太平洋地域研究D いずれか1科目選択
	SDGs特別講義				SDGs特別講義A		SDGs特別講義B	SDGs特別講義C いずれか1科目選択		
	国際関係 国際経済 国際ビジネス				比較経済学 国際経済学Ⅰ 経営管理論		国際経済学Ⅱ 環境経済論 経営戦略論	開発経済論 マーケティング論 国際協力法	Contemporary Economic Issues 対外政策論 安全保障と国際法 海洋法・国際環境法	国際人権法 いずれか2科目選択
演習・卒業論文		基礎演習A	基礎演習B	専門演習ⅠA	専門演習ⅠB		専門演習ⅡA	専門演習ⅡB	専門演習ⅢA	専門演習ⅢB 卒業論文
キャリア形成科目		国際キャリア開発A	国際キャリア開発B	国際キャリアデザインA	国際キャリアデザインB		国際キャリア演習A	国際キャリア演習B		

※各科目の開講学期は変更になる場合があります。

※1 ただし、外国人留学生は、当該英語科目に係る必修要件を、「日本語1」、「日本語2」、「日本語3」、「日本語4」、「日本語5」、「日本語6」、「日本語7」、「日本語8」の8科目16単位の修得をもって満たすことができる。

③国際ビジネスモデル

		1年次		2年次			3年次		4年次	
		春学期	秋学期	春学期	秋学期		春学期	秋学期	春学期	秋学期
必修外国語※1		Intensive English W/R Ⅰ Intensive English L/S Ⅰ	Intensive English W/R Ⅱ Intensive English L/S Ⅱ	Advanced English W/R Ⅰ Advanced English L/S Ⅰ	Advanced English W/R Ⅱ Advanced English L/S Ⅱ					
専門基礎科目		国際学基礎A 国際学基礎B 情報処理基礎 Exam Prep. Ⅰ 世界史概論	データサイエンス基礎 Exam Prep. Ⅱ 国際経済基礎 国際経営基礎 日本史概論 観光概論 コミュニケーション論 異文化理解 国際社会学 国際政治学Ⅰ 国際社会と法 いずれか2科目選択	ビジネスアプリケーション Exam Prep. Ⅲ 国際経済概論 国際ビジネス概論 ジェンダー論 Current World Events Ⅰ ことばと社会 世界の宗教 異文化コミュニケーション 国際政治学Ⅱ 日本と国際法 いずれか2科目選択	Exam Prep. Ⅳ		Exam Prep. Ⅴ	Exam Prep. Ⅵ		
専門発展科目	各国・地域事情				現代日本事情 現代中国事情 現代アメリカ事情 現代東南アジア事情					
	アジア太平洋地域研究						アジア太平洋地域研究A	アジア太平洋地域研究B	アジア太平洋地域研究C	アジア太平洋地域研究D いずれか1科目選択
	SDGs特別講義				SDGs特別講義A		SDGs特別講義B	SDGs特別講義C いずれか1科目選択		
	国際関係 国際経済 国際ビジネス				経営管理論 経営組織論 マーケティング論 国際経済学Ⅰ		経営戦略論 人的資源管理論 会計学 流通システム論 国際経営情報 国際経済学Ⅱ	Business Management アントレプレナーシップ論 企業の社会的責任論 貿易実務 いずれか2科目選択		
演習・卒業論文		基礎演習A	基礎演習B	専門演習ⅠA	専門演習ⅠB		専門演習ⅡA	専門演習ⅡB	専門演習ⅢA	専門演習ⅢB 卒業論文
キャリア形成科目		国際キャリア開発A	国際キャリア開発B	国際キャリアデザインA	国際キャリアデザインB		国際キャリア演習A	国際キャリア演習B		

※各科目の開講学期は変更になる場合があります。

※1　ただし、外国人留学生は、当該英語科目に係る必修要件を、「日本語1」、「日本語2」、「日本語3」、「日本語4」、「日本語5」、「日本語6」、「日本語7」、「日本語8」の8科目16単位の修得をもって満たすことができる。

4 2023年度 国際学部 開設科目一覧表（カリキュラムマップ）

（1）共通教育科目一覧表

表のDP1～4は、学位授与の方針（DP）に掲げた1～4の能力との関連を表しています。DPについては、P5をご覧ください。

区分		授業科目	単位	グレード	配当年次				DP1 英語コミュニケーション	DP1 アジア太平洋	DP2	DP3	DP4	備考
教養科目	外国語科目	中国語A	1	G1	1	2	3	4					○	
		中国語B	1	G1	1	2	3	4					○	
		中国語総合演習A	2	G2	1	2	3	4					○	
		中国語総合演習B	2	G2	1	2	3	4					○	
		中国語コミュニケーション演習A	2	G2	1	2	3	4					○	
		中国語コミュニケーション演習B	2	G2	1	2	3	4					○	
		韓国語A	1	G1	1	2	3	4					○	
		韓国語B	1	G1	1	2	3	4					○	
		韓国語総合演習A	2	G2	1	2	3	4					○	
		韓国語総合演習B	2	G2	1	2	3	4					○	
		韓国語コミュニケーション演習A	2	G2	1	2	3	4					○	
		韓国語コミュニケーション演習B	2	G2	1	2	3	4					○	
	文章作成・読解分野	文章作成Ⅰ	2	G1	1	2	3	4					○	
		文章作成Ⅱ	2	G1	1	2	3	4					○	
		文章理解	2	G2	1	2	3	4					○	
	人文・社会分野	哲学	2	G2	1	2	3	4					○	
		倫理学	2	G2	1	2	3	4	○				○	
		論理学	2	G2	1	2	3	4					○	
		日本史	2	G2	1	2	3	4	○	○			○	
		世界史	2	G2	1	2	3	4	○	○			○	
		文学	2	G2	1	2	3	4					○	
		心理学	2	G2	1	2	3	4					○	
		芸術学	2	G2	1	2	3	4					○	
		日本国憲法	2	G2	1	2	3	4		○			○	
		地理学	2	G2	1	2	3	4		○			○	
		社会学	2	G2	1	2	3	4	○				○	
	数理・自然分野	数的処理ⅠA	2	G1	1	2	3	4					○	
		数的処理ⅠB	2	G1	1	2	3	4					○	
		数的処理ⅡA	2	G2	1	2	3	4					○	
		数的処理ⅡB	2	G2	1	2	3	4					○	
		数的推理(数の性質)	2	G2	1	2	3	4					○	
		数的推理(確率と図形)	2	G2	1	2	3	4					○	
		判断推理(論理)	2	G2	1	2	3	4					○	
		判断推理(図形)	2	G2	1	2	3	4					○	
		資料解釈	2	G2	1	2	3	4					○	
		データサイエンス	2	G2	1	2	3	4					○	
		科学の歴史	2	G2	1	2	3	4					○	
		現代社会と科学	2	G2	1	2	3	4					○	
		生命科学と人間	2	G2	1	2	3	4					○	
		AIと産業・社会	2	G2	1	2	3	4					○	
	情報分野	情報ストラテジ	2	G2	1	2	3	4					○	
		情報マネジメント	2	G2	1	2	3	4					○	
		情報テクノロジ	2	G2	1	2	3	4					○	
		情報科学演習	2	G2	1	2	3	4					○	
		プログラミングⅠ	2	G2	1	2	3	4					○	
		プログラミングⅡ	2	G2	1	2	3	4					○	
		プログラミングのための情報数理	2	G2	1	2	3	4					○	
		情報セキュリティ	2	G2	1	2	3	4					○	
		ワープロ実践	2	G2	1	2	3	4					○	
		表計算実践	2	G2	1	2	3	4					○	
		データベース実践	2	G2	1	2	3	4					○	
		デジタルプレゼンテーション	2	G2	1	2	3	4					○	
		ワープロ応用	2	G2	1	2	3	4					○	
		表計算応用	2	G2	1	2	3	4					○	
	スポーツ・健康分野	体育実技A	1	G1	1	2	3	4					○	
		体育実技B	1	G1	1	2	3	4					○	
		生涯スポーツA	1	G2	1	2	3	4					○	
		生涯スポーツB	1	G2	1	2	3	4					○	
		トレーニング演習A	2	G2	1	2	3	4					○	
		トレーニング演習B	2	G2	1	2	3	4					○	
		スポーツ論	2	G2	1	2	3	4					○	
		スポーツ指導論	2	G2	1	2	3	4					○	
		スポーツ管理論	2	G2	1	2	3	4					○	
		現代社会と健康	2	G2	1	2	3	4					○	
	総合分野	飢餓と貧困	2	G2	1	2	3	4		○			○	
		平和学	2	G2	1	2	3	4		○			○	
		地球と環境	2	G2	1	2	3	4		○			○	
		気候変動と社会	2	G2	1	2	3	4		○			○	
		資源・エネルギーと社会	2	G2	1	2	3	4		○			○	
		ジェンダーと社会	2	G2	1	2	3	4	○	○			○	
		現代社会と人権	2	G2	1	2	3	4	○	○			○	
		現代社会と教育	2	G2	1	2	3	4	○				○	
		学校ボランティア	2	G2	1	2	3	4					○	
		教養特別講義A	2	G2	1	2	3	4					○	
		教養特別講義B	2	G2	1	2	3	4					○	

区分	授業科目	単位	グレード	配当年次				DP1 英語コミュニケーション	DP1 アジア太平洋	DP2	DP3	DP4	備考
留学生科目	日本語総合演習A	2	G2	1	2	3	4					○	
	日本語総合演習B	2	G2	1	2	3	4					○	
	日本語読解	1	G2	1	2	3	4					○	
	日本語会話	1	G2	1	2	3	4					○	
	日本語表現	1	G2	1	2	3	4					○	
	現代日本事情A	2	G1	1	2	3	4					○	
	現代日本事情B	2	G1	1	2	3	4					○	
技能資格関連科目	中国語検定	2	G2	1	2	3	4					○	
	中国漢語水平考試(HSK)	2	G2	1	2	3	4					○	
	韓国語能力試験	2	G2	1	2	3	4					○	
	ハングル能力検定試験	2	G2	1	2	3	4					○	
	IT資格初級	1	G1	1	2	3	4					○	
	ITパスポート	2	G2	1	2	3	4					○	
	基本情報技術者	4	G3	1	2	3	4					○	
	環境社会検定	2	G2	1	2	3	4					○	

（2）国際学部国際学科専門教育科目一覧表

表のDP1～4は、学位授与の方針（DP）に掲げた1～4の能力との関連を表しています。DPについては、P5をご覧ください。

区分	科目	単位	グレード	配当年次				DP1 英語コミュニケーション	DP1 アジア太平洋	DP2	DP3	DP4	備考
必修外国語	Intensive English W/R Ⅰ	2	G1	1	2	3	4	○	○			○	必修科目
	Intensive English W/R Ⅱ	2	G1	1	2	3	4	○	○			○	必修科目
	Intensive English L/S Ⅰ	2	G1	1	2	3	4	○	○			○	必修科目
	Intensive English L/S Ⅱ	2	G1	1	2	3	4	○	○			○	必修科目
	Advanced English W/R Ⅰ	2	G2		2	3	4	○	○			○	必修科目
	Advanced English W/R Ⅱ	2	G2		2	3	4	○	○			○	必修科目
	Advanced English L/S Ⅰ	2	G2		2	3	4	○	○			○	必修科目
	Advanced English L/S Ⅱ	2	G2		2	3	4	○	○			○	必修科目
	日本語1	2	G1	1	2	3	4	○	○			○	留学生科目
	日本語2	2	G1	1	2	3	4	○	○			○	留学生科目
	日本語3	2	G1	1	2	3	4	○	○			○	留学生科目
	日本語4	2	G1	1	2	3	4	○	○			○	留学生科目
	日本語5	2	G2		2	3	4	○	○			○	留学生科目
	日本語6	2	G2		2	3	4	○	○			○	留学生科目
	日本語7	2	G2		2	3	4	○	○			○	留学生科目
	日本語8	2	G2		2	3	4	○	○			○	留学生科目
専門基礎科目	国際学基礎A	2	G1	1	2	3	4	○				○	必修科目
	国際学基礎B	2	G1	1	2	3	4		○			○	必修科目
	情報処理基礎	2	G1	1	2	3	4	○	○			○	必修科目
	データサイエンス基礎	2	G1	1	2	3	4	○	○			○	必修科目
	ビジネスアプリケーション	2	G2	1	2	3	4	○	○			○	
	Exam Prep. Ⅰ	2	G1	1	2	3	4	○	○			○	
	Exam Prep. Ⅱ	2	G1	1	2	3	4	○	○			○	
	Exam Prep. Ⅲ	2	G2		2	3	4	○	○			○	
	世界史概論	2	G1	1	2	3	4	○	○			○	履修指定科目
	日本史概論	2	G1	1	2	3	4	○	○			○	
	ジェンダー論	2	G2	1	2	3	4	○	○			○	
	Current World Events Ⅰ	2	G2	1	2	3	4	○	○			○	
	コミュニケーション論	2	G2	1	2	3	4	○				○	
	異文化コミュニケーション	2	G2	1	2	3	4	○				○	
	ことばと社会	2	G2	1	2	3	4	○				○	
	異文化理解	2	G2	1	2	3	4	○	○			○	
	国際社会学	2	G2	1	2	3	4	○				○	
	世界の宗教	2	G2	1	2	3	4	○	○			○	
	観光概論	2	G2	1	2	3	4	○	○			○	
	国際政治学Ⅰ	2	G2	1	2	3	4		○			○	
	国際政治学Ⅱ	2	G2	1	2	3	4		○			○	
	国際社会と法	2	G2	1	2	3	4		○			○	
	日本と国際法	2	G2	1	2	3	4		○			○	
	国際経済基礎	2	G2	1	2	3	4		○			○	
	国際経済概論	2	G2	1	2	3	4		○			○	
	国際経営基礎	2	G2	1	2	3	4		○			○	
	国際ビジネス概論	2	G2	1	2	3	4		○			○	

外国人留学生は、当該英語科目に係る必修要件を、日本語1、日本語2、日本語3、日本語4、日本語5、日本語6、日本語7、日本語8の8科目16単位の修得をもって満たすことができる。

国際学基礎A、国際学基礎B、情報処理、データサイエンス基礎の4科目8単位を含む24単位以上選択必修

区分		科目	単位	グレード	配当年次				DP1 英語コミュニケーション	DP1 アジア太平洋	DP2	DP3	DP4	備考
専門発展科目	外国語発展	Advanced English Ⅲ	2	G3			3	4	○					
		Advanced English Ⅳ	2	G3			3	4	○					
		日本語9	2	G3			3	4	○					留学生科目
		日本語10	2	G3			3	4	○					留学生科目
		Exam Prep. Ⅳ	2	G2		2	3	4	○					
		Exam Prep. Ⅴ	2	G3		2	3	4	○					
		Exam Prep. Ⅵ	2	G3		2	3	4	○					
		Current World Events Ⅱ	2	G3		2	3	4	○	○				
		Global Issues Ⅰ	2	G3		2	3	4	○	○				
		Global Issues Ⅱ	2	G3		2	3	4	○	○				
		Readings for International Studies Ⅰ	2	G4			3	4	○	○				
		Readings for International Studies Ⅱ	2	G4			3	4	○	○				
		Global Citizen's Project	2	G4			3	4	○					
		Business Communication Ⅰ	2	G4			3	4	○					
		Business Communication Ⅱ	2	G4			3	4	○					
		English for Tourism	2	G3		2	3	4	○					〈英語コミュニケーションコース〉 Advanced English Ⅲ、Advanced English Ⅳの2科目4単位を含む24単位以上選択必修。ただし、外国人留学生は、Advanced English Ⅲ、Advanced English Ⅳに係る必修要件を、日本語9、日本語10の2科目4単位の修得をもって満たすことができる。
		翻訳実践	2	G4			3	4	○					
		通訳実践	2	G4			3	4	○					
	コミュニケーション	コミュニケーション技法Ⅰ	2	G3		2	3	4	○					
		コミュニケーション技法Ⅱ	2	G3		2	3	4	○					
		アカデミックライティング	2	G3		2	3	4	○	○				
		テクニカルライティング	2	G3		2	3	4	○	○				
		プレゼンテーション実践	2	G4			3	4	○					
	社会・文化	比較文化論	2	G3		2	3	4	○					
		多文化共生社会論	2	G3		2	3	4	○					
		Japanese Culture	2	G3		2	3	4	○					
		Cultural Studies	2	G4			3	4	○					
		Multicultural Society	2	G3		2	3	4	○					
		International Migration	2	G4			3	4	○					
		言語習得と文化	2	G3		2	3	4	○					
		多言語社会と言語政策	2	G4			3	4	○					
		言語文化論	2	G4			3	4	○					
		Language and Culture	2	G4			3	4	○					
	観光・ホスピタリティ	観光資源論	2	G3		2	3	4	○					
		国際観光論	2	G4			3	4	○					
		ホスピタリティ論	2	G3		2	3	4	○					
		航空実務	2	G3		2	3	4	○					
		航空経済論	2	G4			3	4	○					
		Tourism and World Heritages	2	G4			3	4	○					

区分		科目	単位	グレード	配当年次				DP1 英語コミュニケーション	DP1 アジア太平洋	DP2	DP3	DP4	備考
専門発展科目	各国・地域事情	現代日本事情	2	G3		2	3	4		○				
		現代中国事情	2	G3		2	3	4		○				
		現代アメリカ事情	2	G3		2	3	4		○				
		現代東南アジア事情	2	G3		2	3	4		○				
	アジア太平洋地域研究	アジア太平洋地域研究A	2	G4			3	4		○				
		アジア太平洋地域研究B	2	G4			3	4		○				
		アジア太平洋地域研究C	2	G4			3	4		○				
		アジア太平洋地域研究D	2	G4			3	4		○				
	SDGs関連	SDGs特別講義A	2	G3		2	3	4		○				
		SDGs特別講義B	2	G3		2	3	4		○				
		SDGs特別講義C	2	G3		2	3	4		○				
	国際関係	比較政治学	2	G3		2	3	4		○				
		国際関係論	2	G3		2	3	4		○				
		対外政策論	2	G4			3	4		○				
		政治地理学	2	G4			3	4		○				
		国際協力法	2	G3		2	3	4		○				
		安全保障と国際法	2	G4			3	4		○				
		国際人権法	2	G4			3	4		○				
		海洋法・国際環境法	2	G4			3	4		○				
		比較税制論	2	G3		2	3	4		○				
		NPO・NGO論	2	G3		2	3	4		○				
		地方自治と国際協力	2	G3		2	3	4		○				
		比較法	2	G3		2	3	4		○				
		Introduction to International Law	2	G4			3	4		○				
	国際経済	国際経済学Ⅰ	2	G3		2	3	4		○				
		国際経済学Ⅱ	2	G3		2	3	4		○				
		環境経済論	2	G4			3	4		○				
		開発経済論	2	G4			3	4		○				
		比較経済論	2	G3		2	3	4		○				
		Contemporary Economic Issues	2	G4			3	4		○				
	国際ビジネス	経営管理論	2	G3		2	3	4		○				
		経営戦略論	2	G3		2	3	4		○				
		経営組織論	2	G3		2	3	4		○				
		人的資源管理論	2	G3		2	3	4		○				
		マーケティング論	2	G3		2	3	4		○				
		経営情報論	2	G3		2	3	4		○				
		流通システム論	2	G3			3	4		○				
		企業の社会的責任論	2	G4			3	4		○				
		会計学	2	G4			3	4		○				
		アントレプレナーシップ論	2	G4			3	4		○				
		Business Management	2	G4			3	4		○				
		貿易実務	2	G4			3	4		○				

〈アジア太平洋コース〉

「各国・地域事情」のうち1科目2単位、「アジア太平洋地域研究」のうち 1科目 2単位、「SDGs関連」のうち1科目2単位、計3科目6単位を含む24単位以上選択必修。

区分	科目	単位	グレード	配当年次				DP1 英語コミュニケーション	DP1 アジア太平洋	DP2	DP3	DP4	備考
演習・卒業論文	基礎演習A	2	G1	1				○	○	○	○		履修指定科目
	基礎演習B	2	G1	1				○	○	○	○		履修指定科目
	専門演習ⅠA	2	G2		2			○	○	○	○		履修指定科目
	専門演習ⅠB	2	G2		2			○	○	○	○		履修指定科目
	専門演習ⅡA	2	G3			3		○	○	○	○		履修指定科目
	専門演習ⅡB	2	G3			3		○	○	○	○		履修指定科目
	専門演習ⅢA	2	G4				4	○	○	○	○		必修科目
	専門演習ⅢB	2	G4				4	○	○	○	○		必修科目
	卒業論文	4	G4				4	○	○	○	○		
留学・体験科目	海外語学研修A	2	G1	1	2	3	4	○	○	○			
	海外語学研修B	2	G1	1	2	3	4	○	○	○			
	海外語学研修C	2	G1	1	2	3	4	○	○	○			
	海外語学研修D	2	G1	1	2	3	4	○	○	○			
	国際英語研修A	2	G2		2	3	4	○	○	○			
	国際英語研修B	2	G2		2	3	4	○	○	○			
	国際英語研修C	2	G2		2	3	4	○	○	○			
	国際英語研修D	2	G2		2	3	4	○	○	○			
	国際英語研修E	2	G2		2	3	4	○	○	○			
	国際英語研修F	2	G2		2	3	4	○	○	○			
	国際英語研修G	2	G2		2	3	4	○	○	○			2単位以上選択必修
	国際英語研修H	2	G2		2	3	4	○	○	○			
	国際教養研修A	2	G3		2	3	4	○	○	○			
	国際教養研修B	2	G3		2	3	4	○	○	○			
	国際教養研修C	2	G3		2	3	4	○	○	○			
	国際教養研修D	2	G3		2	3	4	○	○	○			
	国際教養研修E	2	G3		2	3	4	○	○	○			
	国際教養研修F	2	G3		2	3	4	○	○	○			
	国際教養研修G	2	G3		2	3	4	○	○	○			
	国際教養研修H	2	G3		2	3	4	○	○	○			
	フィールド・プロジェクトA	2	G2	1	2	3	4	○	○	○	○		
	フィールド・プロジェクトB	2	G2	1	2	3	4	○	○	○	○		
	フィールド・プロジェクトC	2	G2	1	2	3	4	○	○	○	○		
キャリア形成科目	国際キャリア開発A	2	G1	1						○	○		履修指定科目
	国際キャリア開発B	2	G1	1						○	○		履修指定科目
	国際キャリアデザインA	2	G2		2					○	○		
	国際キャリアデザインB	2	G2		2					○	○		
	国際キャリア演習A	2	G3			3				○	○		
	国際キャリア演習B	2	G3			3				○	○		
	インターンシップⅠ	1	G2	1	2	3	4			○	○		
	インターンシップⅡ	1	G2	1	2	3	4			○	○		
	海外インターンシップ	2	G3	1	2	3	4			○	○		

区分	科目	単位	グレード	配当年次				DP1 英語コミュニケーション	DP1 アジア太平洋	DP2	DP3	DP4	備考
技能資格関連科目	英語技能資格Ⅰ	2	G2	1	2	3	4					○	
	英語技能資格Ⅱ	2	G2	1	2	3	4					○	
	日本語技能資格Ⅰ	2	G2	1	2	3	4					○	
	日本語技能資格Ⅱ	2	G2	1	2	3	4					○	

5 カリキュラムツリー

各分野について、以下のカリキュラムツリーを参考にして、順次的に学修を進めてください。

英語

Intensive English W/R Ⅰ / Intensive English L/S Ⅰ
→ Intensive English W/R Ⅱ / Intensive English L/S Ⅱ
→ Advanced English W/R Ⅰ / Advanced English L/S Ⅰ
→ Advanced English W/R Ⅱ / Advanced English L/S Ⅱ
→ Advanced English Ⅲ → Advanced English Ⅳ
→ Business Communication Ⅰ → Business Communication Ⅱ → Global Citizen's Project
→ English for Tourism / 翻訳実践 / 通訳実践

日本語

Exam Prep. Ⅰ → Exam Prep. Ⅱ → Exam Prep. Ⅲ → Exam Prep. Ⅳ → Exam Prep. Ⅴ → Exam Prep. Ⅵ

日本語1 / 日本語2 → 日本語3 / 日本語4 → 日本語5 / 日本語6 → 日本語7 / 日本語8 → 日本語9 → 日本語10

国際学基礎A

- Current World Events Ⅰ → Current World Events Ⅱ
- Global Issues Ⅰ → Global IssuesⅡ → Readings for International Studies Ⅰ → Readings for International Studies Ⅱ
- コミュニケーション論
  - → コミュニケーション技法Ⅰ → テクニカルライティング → プレゼンテーション実践
  - → コミュニケーション技法Ⅰ → アカデミックライティング
  - → 異文化コミュニケーション / ことばと社会 → コミュニケーション技法Ⅱ → 言語習得と文化 → 言語文化論 → Language and Culture
  - → 言語習得と文化 → 多言語社会と言語政策
- 異文化理解 → 世界の宗教 → 比較文化論 → Japanese Culture → Cultural Studies
- 国際社会学 → 多文化共生社会論 → Multicultural Society → International Migration
- 観光概論 → 観光資源論 → 国際観光論 → Tourism and World Heritages
- 観光概論 → ホスピタリティ論 → 航空実務 → 航空経済論

ジェンダー論

国際学基礎B

- 世界史概論
- 日本史概論
- 国際政治学Ⅰ → 国際政治学Ⅱ
  - → 比較政治学 / 国際関係論 → 対外政策論 / 政治地理学
  - → 国際協力法 → 安全保障と国際法 / 国際人権法 / 海洋法・国際環境法 / Introduction to International Law
- 国際社会と法 → 日本と国際法
  - 現代日本事情: 比較法 / 比較税制論 / 地方自治と国際協力 / NPO・NGO論
  - 現代中国事情
  - 現代アメリカ事情
  - 現代東南アジア事情
- 国際経済基礎 → 国際経済概論
  - → 比較経済学 → Contemporary Economic Issues
  - → 国際経済学Ⅰ → 国際経済学Ⅱ → Contemporary Economic Issues
  - → 環境経済論 → 開発経済論
- 国際経営基礎 → 国際ビジネス概論
  - → 経営戦略論
  - → 経営管理論 → Business Management
  - → 経営組織論 → 人的資源管理論
  - → マーケティング論 → 流通システム論
  - → 経営情報論
  - → 会計学
  - → アントレプレナーシップ論
  - → 企業の社会的責任論
  - → 貿易実務

SDGs特別講義A～D

アジア太平洋地域研究A～D

6 初年次教育

初年次教育

1年次には、新入生が高等学校から大学等への円滑な移行を図るため、「初年次教育」として以下の科目を中心に学修します。初年次教育を通じて、レポート・論文の書き方や、学生生活における時間管理、プレゼン等の技法など、大学生として学修する上で必要な基礎的知識・技能などを修得することができます。

国際学部における初年次教育は、「世界へ関心を持つ」「英語で学ぶ」を軸として、専門基礎科目を中心に科目を履修します。特に国際学部での多分野からなる複合的な学びを貫く「国際学」の視点（理論）を身につけることを目的とした必修科目である、国際学基礎A（英語コミュニケーションコースの国際学）・B（アジア太平洋コースの国際学）を通じて、各コースを構成する学びの分野と視点を修得し、その特徴を知ることができるようにします。

また、国際学部では、「海外体験を通じて、今後の語学および専門学修での動機づけとなるような『気づき』を得ることができる学生」および「世界に飛び出す心構えを持ち、積極的に参加する学生」の養成をめざしています。

「世界に飛び出す」ことへの心構えについては学生間に差があり、教員からのアドバイスやサポートを通じ、学生への働きかけにより海外体験への期待感を膨らますことができるようサポートします。特に基礎演習を通じ、担当教員はひとりひとりの学生に対し、柔軟性のある対応を行います。

基礎演習A・B

基礎演習A・Bは、春学期と秋学期の1年間を通じて行われる、ゼミナール形式（クラス指定）の授業です。基礎演習A・Bのクラスでは、アドバイザーである担当教員及びスチューデント・アシスタント（上級生）の体制でクラスの運営を行います。

この基礎演習A・Bでは、皆さんが高校から大学での生活にスムーズに移行できるように、授業での学修方法や発表、討論の仕方、論述形式の試験における答案やレポートの書き方など、国際学部の専門教育科目を学ぶ際に必要な文章理解力、文章作成力、表現力などの基礎学力を養成することを目的としています。また、4年間の学修の成果である、卒業論文の完成を見据えた学修の足掛かりとなる科目です。

基礎演習A・Bでの学修を通じて、大学や国際学部での学びについて理解を深め、将来の志望や職業選択に向けた準備を行ってください。

7 英語教育

国際学部における英語教育は、言語学としての専門性の修得を目的とするのではなく、英語を用いて国際社会の様々な場面において必要なコミュニケーションを図ることができる実践的な活用力を重視します。

国際的なビジネス社会では、交渉・契約等にあたって、英語を基本言語として使用するのが通例であり、事業のグローバル化を進める日本企業が採用・昇格にあたって英語運用能力をより重視するようになっています。このような観点から、国際的なビジネス・市民社会でグローバル人材を要請することを目的とする国際学部においては、「使える英語」を学生が修得すべき必須の能力としています。

国際学部における英語教育は、1・2年次は、習熟度別に編成された少人数クラスにおいて、英語ネイティブ教員と日本人教員が共同して教育に取り組み、学生が英語の4技能（「聞く」「話す」「読む」「書く」）をバランスよく身につけるとともに、その腕試しとなる1年次早期からの多彩な留学・海外体験への参加を推奨しています。

また、TOEIC®やTOEFL®等の英語能力試験の対策科目を1・2年次に配置しています。

3年次以降はより高度な英語運用能力の獲得をめざし、コンテント・ベースドの英語教育科目を開設するほか、英語で学修する専門講義科目や演習科目を配置し、語学力をさらに高め、目標とするTOEIC®スコア（英語コミュニケーションコースは標準目標600、発展的学修目標730、アジア太平洋コースは標準目標500、発展的学修目標600）を達成します。

国際学部では「使える英語」の修得に注力し、目標となるTOEIC®スコア達成を客観的に評価する指標としてCEFR-J（CEFR（Common European Framework of Reference for Languages）に準拠し、日本における英語教育に適するよう構築された、新しい英語能力到達度指標）を参照しています。

「使える英語」とは、TOEIC®スコアはもとより、国際学部で学んだ知識と実際に体験したことを自分の言葉で表現・発信できることを意味します。したがって、英語教授の際には、「世界を知る力」の涵養と「留学・体験科目」への参加による実体験の積み重ねを念頭に置き、英語運用能力と国際社会に関する知識を相互に身につける教育を実施します。そのためにも、学部教育の初年次のコアとなる科目である「基礎演習A」と「基礎演習B」との連携を強め、質の高い「英語教育＋専門知識修得＋実体験」を通じた学生の「国際性」涵養に注力します。

(1) 英語教育の考え方

国際学部では、すべての機会と手段を駆使して総合的英語運用能力の向上を図ります。英語・専門科目等の正課、日常的交流や学修イベント、また、日本国内や海外での体験・留学等、関連するすべてを連携させた英語教育を実施します。学部における英語教育は、学修空間並びに役割が異なりながらも、相関関係を有するあらゆる学修を不可分に調和させ、英語運用能力の向上をトータルに進めます。

英語運用能力に関しては、英語のすべてのスキルを基礎から徹底的に学び、反復して修得します。あえて「基礎」にこだわる理由は「基礎」の修得と定着こそが、生涯にわたる英語運用能力の向上を担保するからです。英語の修得に奇策やショートカット（近道）はなく、教室やキャンパスの中と外、日本の中と外、あらゆる機会と手段を活用して、基礎から応用までの体系的な学びを経て、グローバル社会で「使える英語」、生涯にわたって成長し続けるための「英語の体幹」を鍛えます。

(2) 英語運用能力の到達目標（TOEIC®）と到達指標（CEFR-J）

国際学部では、正課の英語授業における学修到達度を評価し単位認定しますが、成績評価だけではなく、TOEIC®スコアを一般的なビジネス英語運用能力の指標としてとらえ、教員と学生自身が学修目標達成の目安として使用します。それにより、学生が一定のTOEIC®スコア達成にチャレンジし、将来のキャリアに向け、より高い目標をもって自らを磨いていく機会とします。

また、「使える英語」という就業性の観点から、CEFR-J基準に照らし合わせて評価することで基礎となる4技能（「聞く」「話す」「読む」「書く」）それぞれの学修達成度を客観的に測り、希望進路の実現に合わせた効果的な英語教育を展開します。

1．標準目標

英語運用能力に関しては、個々の学生の習熟度別のクラス編成を基本とし、より実践的な英語運用能力を修得させることをめざします。標準目標として、英語コミュニケーションコースではTOEIC®スコア600、アジア太平洋コースではTOEIC®スコア500が設定されています。

TOEIC®スコア500とは、日常生活のニーズを充足し、通常会話であれば要点理解や応答などのコミュニケーションができるスコアです。CEFR-J基準では、文章構成を意識しながら参考図書などを読むことができる、店や病院などの場所において意思や問題を齟齬なく伝えることができる能力を指します。また、TOEIC®スコア600とは、通常会話の要点を理解し就業に参加可能な能力を持つことを示し、同時に日本企業がグローバル化に対応するための社員の英語運用能力として求める平均的スコアです。CEFR-J基準では、日常生活・専門学修を問わず文書や会話の要点を理解し、場面に応じたニュアンスを含めた表現ができる能力を指します。

国際学部では、卒業時に英語を用いてビジネスの現場や生活に積極的に参加できる「使える英語」を身につけ、グローバルに活躍できる社会人を養成することに主眼を置き、様々な形でのインプット・アウトプットを通して聴解能力、口頭表現、文章表現、読解能力を鍛える英語教育を展開しています。また、複数回受験するTOEIC®IPテストと本学独自の学修到達度確認テストを通して、結果に応じたフィードバックを行い、標準目標の達成を実現します。

2．発展的学修目標

国際学部では、標準学修目標の達成に加え、英語コミュニケーションコースではTOEIC®スコア730、アジア太平洋コースではTOEIC®スコア600の達成を発展的学修目標として掲げています。

TOEIC®スコア730とは、日常的、あるいは専門的な話題であっても滞りなくコミュニケーションをとることができ、観光や航空などの専門性が高い業界においても達成できていることが望まれるスコアです。CEFR-J基準では、複数の視点や考えが含まれた文書をそれらの違いを意識して理解することができ、状況に合わせた適切な形で自己を不足なく表現できる能力を指します。

週4日の英語必修科目を2年間通して学修することに加え、「Exam Prep. I～VI」などのTOEIC®やTOEFL®の英語能力検定に向けた実践的な対策科目や、英語を用いて学修を進める講義・演習科目を履修するほか、英語コミュニケーションコースに設置されている「Advanced English III・IV」などの3年次以降に設置する高度な英語科目を継続的に履修することにより、TOEIC®スコア730以上の実現を目指します。

8 留学生の皆さんへ

国際学部では、大学での専門教育科目・共通教育科目の理論と知識を学び理解すること、そして日本国内での就職や大学院進学など志望進路に進むことができるよう、みなさん一人ひとりの日本語能力のレベルに合わせて着実に日本語能力を上げるためにサポートします。また、日本語を身につけた上で、さらに英語の学修にチャレンジすることも可能です。日本語と母語を使いこなして活躍する人材、あるいは英語も含めた三言語を使いこなして活躍する人材を目指していきましょう。

（1）まずは日本語能力試験(JLPT)のN1をとろう！

留学生のみなさんが日本での専門教育科目・共通教育科目を学ぶためには、少なくとも日本語能力試験 (JLPT)N2以上の日本語能力が必要とされます。また、卒業後に大学院への進学を志望する留学生のみなさんは、さらに高度で専門的な日本語能力が求められることはいうまでもありません。

卒業後、学部で学んだ専門知識と日本語能力を活用して、日本で就職してキャリアを切り拓こうという留学生もたくさんいると思います。日本で就職するためには「読む・書く」力も必要ですが、特に「聞く・話す」力が求められます。日本語能力試験 (JLPT)N1の日本語能力を身につけ、ビジネスマナーを含め、企業で求められる日本語コミュニケーション能力を身につけられるよう、日本語学修、専門演習や講義での学修、「国際キャリアデザインA・B」の履修などに取り組んでください。

（2）留学生用の日本語関連科目

日本の大学で充実した学生生活を送るためには、大学で豊かな人間関係を築くために必要な日本語と、専門書を読んだり、講義を聞いたり、日本語で考え、議論に参加するために必要な日本語を身につけていくために、次のような科目があります。

科目	目標レベル
日本語１・２	・言語の四技能（読む、書く、聞く、話す）すべての向上を目指します。 ・大学で豊かな人間関係を築くために必要な日本語を学修します。 ・レベルに応じて、N1やN2の合格を目指します。 ・レベルが上がると大学での専門科目の学修に必要な日本語能力の向上や、日本語でレポートや卒業論文を書くことを目指した学修もします。
日本語３・４	
日本語５・６	
日本語７・８	
日本語９・10	
日本語会話＊	・N1に合格している学生を対象に、主に日本での就職に必要な聞く、話す、読む、書くの能力を身につけていきます。 ・人間関係や状況を踏まえた適切な話し方を身につけていきます。 ・ビジネス日本語テスト（BJTテスト）の受験に向けた学修もします。 ＊共通教育科目
日本語読解＊	
日本語表現＊	
日本語総合演習A・B＊	・N2に合格している学生を対象に、講義を聞いたり、日本語で考え、議論に参加するために必要な日本語を身につけていきます。 ＊共通教育科目

日本語１～10は、習熟度別（レベル別）のクラス分けをして、適切な難度の内容を学修します。1年生は入学時のプレースメントテスト結果に基づいて、履修する科目とクラスを指定します。

（3）日本語科目の履修モデル

①日本語能力試験N1を有しない留学生の場合：大学での学修に必要な日本語を身につけながらN1レベルを目指します。

１年生春	１年生秋	２年生春	２年生秋	３年生春	３年生秋
日本語１・２	日本語３・４	日本語５・６	日本語７・８	日本語９	日本語10

②日本語能力試験N1を有する留学生の場合：日本語能力と英語能力を総合的に高めます。

1年生春	1年生秋	2年生春	2年生秋	3年生春	3年生秋
Intensive English W/R Ⅰ Intensive English L/S Ⅰ 日本語総合演習A	Intensive English W/RⅡ Intensive English L/SⅡ 日本語総合演習B	Advanced English W/R Ⅰ Advanced English L/S Ⅰ	Advanced English W/R Ⅰ Advanced English L/S Ⅰ	日本語会話 日本語表現	日本語読解

ぜひ英語の学修にチャレンジして、三言語を使いこなす人材を目指していきましょう！

（4）国際教育交流センターも活用しよう

国際教育交流センターには、日本語学修の教材を豊富にそろえています。また日本語の教員も国際教育交流センターで「オフィスアワー」を実施しており、日本語学修のアドバイスも受けられます。

また、日本人と留学生の日本語会話教室「J-TALK」などの日常的なイベントも行われています。積極的に機会を活用して、日本語の能力をどんどん上げていきましょう。

（5）日本で就職を希望するなら「国際キャリア開発A・B（履修指定科目）」「国際キャリアデザインA・B」「国際キャリア演習A・B」を履修しよう

日本で就職を希望する留学生のみなさんが必ず知っておかなければならないことは主に４つあります。

①日本の文化やビジネス習慣を知ろう

それぞれの国にはそれぞれの文化やビジネス習慣があります。自分の文化と異なる文化の中で働くとき、自分の考え方とは違うことに困惑したり、憤りを感じることもあるでしょう。しかし、文化によってどんな違いがあるのか知っておいたり、日本ではどのように働いているのか、外国の人と日本人が一緒に働いたときに起こるトラブルにはどのようなものがあるのか、どう対処したらいいか考えることができれば、解消できることも多いのです。

②日本は「新卒一括採用」のため、3年生の時から就職活動の準備が必要

「新卒一括採用」とは企業が卒業予定の学生「新卒者」を対象に年度ごとに一括して求人し、在学中に採用試験を行って内定を出し、卒業後すぐに勤務させるという日本の独特の雇用慣行です。このように日本の企業の採用活動は大学を出たばかりの新卒学生を重視する傾向にあります。また採用活動は一定の期間に集中しその他の時期には採用をあまり行いません。

このため卒業後日本の企業で働きたいのであれば、このスケジュールの流れを知り、大学3年生の時から就職活動に向けて準備をすることが必要です。4年生には学業と並行しながら就職活動を行い、10月までに内定を獲得して進路決定できるよう、計画的に進めることが求められます。

③日本語能力試験N1程度の日本語能力が必須、英語もできるとさらに強みになる！

日本で仕事をする場合、日本語でのコミュニケーション能力が絶対条件です。この条件を満たすには学生の時から日本語能力試験（JLPT）N1の日本語能力を習得する必要があります。また留学生を採用する会社の多くは、諸外国に事業を展開している会社が多く、英語の能力も求める会社が多いです。英語ができると、さらに選択肢が広がります。

④卒業後は在留資格変更が必須

みなさんが持っている在留カードまたは外国人登録証明書に記載されている在留資格は「留学」となっていますが、このままでは卒業後日本に在留することができません。留学生のみなさんが日本国内の企業に就職し、引き続き日本に在留することを希望する場合は、「出入国及び難民認定法」に定める手続により、卒業後に留学から「技術・人文知識・国際業務」など、就労できる在留資格への変更手続きを必ず行わなければなりません。

以上４つのことについて確実に学ぶため、１年生には「国際キャリア開発A・B」が履修指定科目となっています。2年生には「国際キャリアデザインA・B」、3年生には「国際キャリア演習A・B」という授業を用意しています。日本での独特の雇用環境を理解し希望する業界や企業への就職を実現するため、ぜひ履修してください。

9 キャリア形成のための科目

国際学部では、「キャリア形成科目」を設定し、4年間を通した段階的・体系的なキャリア教育を行い、国際コミュニケーション力と国際協働力を中心に、グローバル人材に必要な素養を涵養するとともに、社会的・職業的自立に必要な能力を養成します。「キャリア形成科目」ではグループワーク等のアクティブ・ラーニングにより、自己表現力（プレゼンテーション力）や意思疎通力をはじめとするコミュニケーション能力と協働して課題に取り組む能力の向上を図ります。

国際学部専門教育科目 キャリア形成科目	国際キャリア開発A・B、国際キャリアデザインA・B、国際キャリア演習A・B、 インターンシップⅠ・Ⅱ、海外インターンシップ

1年生		2年生		3年生		4年生	
春学期	秋学期	春学期	秋学期	春学期	秋学期	春学期	秋学期
国際キャリア開発A	国際キャリア開発B	国際キャリアデザインA	国際キャリアデザインB	国際キャリア演習A	国際キャリア演習B		
インターンシップ / 海外インターンシップ	インターンシップ / 海外インターンシップ	インターンシップ / 海外インターンシップ	インターンシップ / 海外インターンシップ	インターンシップ / 海外インターンシップ			

国際キャリア開発 A・B（1年生：春・秋学期）（履修指定科目）

国際キャリア開発Aは、国際キャリア開発Bとともに、卒業後の生涯にわたる「生き方・学び方・働き方（＝キャリア）」を考えながら、社会人に求められる就業力を培う科目です。就業力とは、学生が卒業後自らの資質を向上させ、社会的・職業的自立を図るために必要な能力となります。この授業を通して、業界や職種を概観し、日本の経済・社会情勢の変化やグローバル化の進展を踏まえた、卒業後の進路選択で重要となる社会観と職業観を培います。さらに、国際学部生の卒業後の進路を見据え、グローバル人材に求められる能力と態度について理解を深めます。

国際キャリアデザイン A・B（2年生：春・秋学期）

国際キャリアデザインA・Bは、自分の将来の生き方・働き方を自分の興味や強みなどを見極めながら考え描き、その未来像を実現するために必要な技能と態度・姿勢について身につけることを目標とします。授業では、講義をベースとしながらも、ペアワークやグループワークを適宜採り入れながら、「調べる」「書く」「まとめる」「話す」「伝える」「聴く」「協働する」という「7つの力」を身につけます。さらに、国際社会で活躍するために必要な「国際コミュニケーション力」と「国際協働力」を養成することで、グローバル社会における自らのキャリアデザインをイメージするための諸課題を認識できるようになります。

国際キャリア演習 A・B（3年生：春・秋学期）

国際キャリア演習A・Bは、卒業後の進路を主体的かつ能動的に決定するために必要な就業力を養成することをねらいとした「社会人へのステップ」となる科目です。この科目では、主に「自己分析」「業界・企業研究」「志望動機構築」について、演習の特性を活かしたグループワークを中心に授業を進めていきます。自己を客観的に捉え、論理的に表現できる力を身に付けながら、企業研究や業界研究などを通じて産業への知識を深めることで国際的な舞台で活躍するグローバル人材に求められる資質・能力と、自らの強みとリンクさせる志望動機の素地を形成し、職業人となるための基礎力を育成します。

インターンシップⅠ・Ⅱ　―就業体験―

インターンシップは、夏季休業期間（夏休み）や春季休業期間（春休み）を利用して、企業や地方公共団体などでの実習（＝就業体験）を行うものです。実習を通じて、社会や職業への理解を深め、自己理解を深めることで、将来の進路や職業の選択に向けた就業観を養成します。事業所への派遣にあたっては、学内で事前のガイダンスと研修を実施し、インターンシップの意義・目的についての理解を深めた後、受入事業所において、約2週間程度（実働10日間）の実習を行います。実習期間終了後、参加者全体で報告を行い、体験レポートを作成することで、インターンシップの成果と課題を認識します。また、本学のインターンシップでは、地方出身者のためのプログラムや外国人留学生対象のプログラムも取りそろえています。さらに本学では、独自のインターンシッププログラムとして、5日間業界横断プログラム、2大学合同プログラム、八尾商工会議所青年部プログラム等、多彩なプログラムを企画しており、1年生から複数回の参加を推奨しています。

○事前研修（ビジネスマナー講座・実践講座）
○事業所での実習（=就業体験）
○インターンシップ全体報告会（夏季・春季）

※要件を満たすことで単位認定あり（詳細の問合せは八尾駅前キャンパス3階　キャリアセンターまで）
※新型コロナウイルス感染症の流行状況により、実施内容が変更となる場合があります。

海外インターンシップ

日本企業の海外進出など、グローバル化に対応したインターンシッププログラムとして海外インターンシップを実施しています。海外の企業で職場体験をするプログラムであり、研修先では英語や現地の言語も使用し職務を行い、派遣国での生活や人々との交流も体験できます。派遣先などの詳細については、別途ガイダンス等でご案内します。

＜過年度の派遣先実績＞
タイ、ベトナム、フィリピン、オーストラリア、ドイツ、フランス、イタリア

※要件を満たすことで単位認定あり（詳細の問い合わせは八尾駅前キャンパス３階　キャリアセンターまで）
※新型コロナウイルス感染症の流行状況により、実施内容が変更となる場合があります。

10 共通教育科目

本学では、情報・数理・日本語・英語等の基本的な知識・技能の修得や、人文・社会・自然科学等に関する幅広い教養を身につけることができるよう、リベラルアーツ教育（教養教育）として、全学部横断の共通教育科目を開設しています。

(1) 外国語科目（国際学部）

中国語・韓国語を選択科目として履修することができます。2年次以降は、各言語に対応した演習科目が開設されており、希望に応じて履修することができます。

●学修の流れ

1 年 次		2 年 次 以 降	
春学期	秋学期	春学期	秋学期
中国語A 韓国語A （各1単位）	中国語B 韓国語B （各1単位）	中国語総合演習A・B 中国語コミュニケーション演習A・B 韓国語総合演習A・B 韓国語コミュニケーション演習A・B （各2単位）	

(2) 教養科目

教養科目は、1・2年次を中心に、大学生として学んでおくべき基本的な知識や技能、幅広い教養を身につけることを目的としています。

全学部共通に、「文章読解・作成分野」「人文・社会分野」「数理・自然分野」「情報分野」「スポーツ・健康分野」「総合分野」の6分野にわたる幅広い科目を提供しています。専攻するコースとの関連や、学問的好奇心や将来の進路などに応じて、自由に選択することができます。

文章読解・作成分野（文章読解・作成力を磨く）

文章読解・作成分野では、大学での学修や社会人として必要になる日本語力を養います。「文章作成Ⅰ」「文章作成Ⅱ」では、卒業論文の作成に向けて、レポート作成の基礎・基本を演習形式で学びます。また、公務員対策科目として「文章理解」が開講されており、特に、公務員を志望する学生は、1年次から2年次に計画的に履修することが望ましいでしょう。

人文・社会分野（人間文化や社会の諸相を読み解く）

人文分野では、人間文化の諸相について学びます。人間とは何か、人間に固有な諸活動にはどのような本質的な特徴が見出されるのか、などの諸問題がここでは取り上げられます。

社会分野では、人間社会の諸現象について学びます。人間社会はどのような仕組みで働いているのか、人間社会を構成する諸要素にはどのような本質的特徴が見出されるのか、などの諸課題がここでは取り上げられます。

数理・自然分野（数的処理能力を磨く、自然の諸相を読み解く）

数理分野では、大学での学修や社会人として必要になる数的処理能力を養います。また、「判断推理（論理）」「判断推理（図形）」「数的推理（数の性質）」「数的推理（確率と図形）」「資料解釈」などの公務員試験対策科目が開講されており、特に、公務員を志望する学生は、1年次から3年次にかけて、計画的に履修することがのぞましいでしょう。

自然分野では、自然科学の各領域の科目を現代的教養として学びます。自然と人間とはどのような関係で相互に影響を及ぼしているのか、科学技術は人間の社会生活に何をもたらしたのかなどの諸問題をここでは取り上げます。

情報分野（ICT・AI 活用やデータ分析能力を養う）

情報分野では、情報化社会で求められるスキルと知識を学びます。現在、Society5.0実現に向けた第4次産業革命（IoT、ビッグデータ、AI等）等、社会の情報化が急速に進展する中、ICT・AI活用やデータ分析等ができる「IT人材」「AI人材」を養成することが、文理問わず広く高等教育機関に求められています。

また、実習や講義を通して情報処理に関する最新の知識・技能が学べるとともに、就職に役立つIT関連資格を取得できる様々な科目が開設されています。

スポーツ・健康分野（心と体を鍛える）

スポーツ・健康分野では、生涯を通じて身体的・精神的・社会的に健康な生活を営むための身体運動のあり方と健康保持・増進についての知識を学びます。この分野は講義科目と実践科目から成り立っています。講義科目では、スポーツや身体運動が心身の健康にもたらす効果や、日々の生活の中で重要な食事、休養、病気等について理論的に理解することが目的となっています。実践科目では、自発的・自覚的に身体運動を行うことの意義とその方法を学ぶことが目的となっています。

総合分野（多角的な視野を養う）

総合分野では、国際社会の諸課題に対して、多角的な視点からアプローチします。平和、人権、環境、SDGs等のグローバルイシューに関する幅広い科目が開講されています。

10 共通教育科目 国際学部国際学科教育課程

⑪ 数理・データサイエンス・AI教育プログラム

(1) 数理・データサイエンス・AI教育プログラムについて

数理・データサイエンス・AI教育プログラムは、文部科学省「数理・データサイエンス・AI教育プログラム認定制度（リテラシーレベル）」に認定されたプログラムです。

数理・データサイエンス・AIへの関心を高め、かつ、数理・データサイエンス・AIを適切に理解し、それを活用する基礎的な能力を育成することを目的として、数理・データサイエンス・AIに関する知識及び技術について体系的に学修します。

(2) 数理・データサイエンス・AI教育プログラムの学修目標

①社会におけるデータ・AI利用に関連し、社会で起きている変化・社会で活用されているデータについて説明できる。
②データ・AIの活用領域、利活用のための技術・現場・最新動向について説明できる。
③データリテラシーに関連し、データを読む・説明する・扱うことができる。
④データ・AIを扱う・データを守る上での留意事項について説明できる。

(3) 対象学生と履修方法

全学部生が対象です。

本プログラムを履修するための特別な手続きは不要です。本プログラムの構成科目を通常どおり履修登録してください。

(4) プログラムの構成科目と修了要件

本プログラムを構成する授業科目は以下の11科目です。これらの科目を学修することで、数理・データサイエンス・AIに関する知識及び技術を身につけます。

本プログラムの修了要件を満たした学生には、年度末に「修了証」を交付します。

科目区分	科目名称	修了要件
学部専門教育科目	①データサイエンス基礎	左記の科目から、「データサイエンス基礎」の2単位を含む12単位以上を修得すること。
共通教育科目	①AIと産業・社会 ②データサイエンス ③プログラミングのための情報数理 ④情報ストラテジ ⑤情報マネジメント ⑥情報テクノロジ ⑦情報科学演習 ⑧情報セキュリティ ⑨プログラミングⅠ ⑩プログラミングⅡ	

⑫ 国際教育プログラム（海外語学研修、フィールド・プロジェクト、英語圏1セメスター留学、交換留学）

本学の国際教育プログラムは、グローバルな舞台に積極的に挑戦し世界に飛躍できる人材の育成を図るため、学生のグローバル化への対応力を段階的に強化することを目的として実施されてきました。そのため、第1段階として、成長を支えるモチベーション形成と海外への心理的障壁の克服を主な目的とする海外協定校あるいは提携機関における短期の語学研修と体験型プログラムを、第2段階として、英語運用能力とコミュニケーション能力の集中的な学修を目的とする英語圏1セメスター留学、交換留学を、第3段階として、専門学修と希望進路の実現に資する難易度の高いプログラムを配置しています。

本学における海外留学及び海外体験は、言語運用能力の向上はもとより、異なる文化や言語をもつ人々との言語あるいは非言語によるコミュニケーションという主体的な活動の場を提供するためのものです。学修、交流など、学生たちの主体的な活動への参加を促し、言語・文化が異なる人々と様々な形のコミュニケーションを通して豊かな関係を構築することを重要目的としています。英語をはじめとする外国語が生活の中で使用されている国・地域での学修と生活、そこでの種々の活動と実体験は、国際理解を深め、国際性を養うという点で意義をもっています。

留学・体験科目は、1科目2単位選択必修となっています。3年次までにいずれかのプログラムに参加することを見据えて、1年次から計画的に準備してください。

(1) 英語コミュニケーションコース

英語コミュニケーションコースでは、英語コミュニケーション力を駆使して、国際社会における諸課題を、ディスカッション、エッセイ・プレゼンテーションなど英語を通じて思考することを目的としています。そのため、英語コミュニケーションコースでは、海外語学研修、英語圏1セメスター留学を推奨します。特に、学修効果の高い、2年次での英語圏1セメスター留学を強く推奨します。また、成績も優秀で留学先の明確な目標を持ち、語学要件を満たし、現地での正課授業を受講できる学生（選考あり）は、交換留学に行くことも可能です。以下のようなプランを参考にして準備してください。

	1年生	2年生	3年生	4年生
プランA	海外語学研修	英語圏1セメスター留学		
プランB		英語圏1セメスター留学 or海外語学研修		
プランC	海外語学研修	英語圏1セメスター留学	交換留学	

英語コミュニケーションコースでは２年次の英語圏１セメスター留学を強く推奨します

※英語圏1セメスター留学は学内での面接（選考）、交換留学は学内での選考と現地大学の選考があります。TOEIC®スコア、成績（GPA・取得単位含む）、留学の明確な目標をもっておくことが重要です。
※卒業要件である留学・海外体験科目の選択必修科目として、フィールド・プロジェクトによる単位取得も可能。留学生については、フィールド・プロジェクト（日本プログラム）を選択することも可能です。

(2) アジア太平洋コース

アジア太平洋コースでは、アジア太平洋地域に関する現状と歴史を土台に、政治・経済・経営の視点から、日本をふくむアジア太平洋地域の諸課題や国際社会に与える影響を分析・思考することを目指しています。このような地域研究では、対象となる国・地域の言語、文化と社会を知る・学ぶことが重要になります。そこで、アジア太平洋コースでは、フィールド・プロジェクトに参加することを強く推奨します。さらに一歩進んで、アジア太平洋地域での英語圏1セメスター留学または交換留学を目指すことも歓迎です。1年次からの海外語学研修やフィールド・プロジェクト韓国、またはフィールド・プロジェクト日本（留学生を対象）への参加を検討してください。以下のようなプランを参考に準備をしてください。

	1年生	2年生	3年生	4年生
プランA	フィールド・プロジェクト （韓国） 韓国への交換留学を目指す場合は参加を強く推奨します。	海外語学研修 （英語、韓国語、中国語）	英語圏1セメスター留学 （米国・オセアニア等） or 交換留学（韓国・中国等）	
プランB	フィールド・プロジェクト or 海外語学研修（英語、韓国語、中国語） （1年次 or 2年次）		交換留学 （韓国・中国等）	
プランC		フィールド・プロジェクト （2年次春休み or 3年次夏休み）		

※留学生はフィールド・プロジェクト（日本）への参加を歓迎します。

(3) 海外語学研修

１．概要

海外協定校での4週間の語学研修です。事前学修（6時間：2時間×3回）、海外現地での語学授業（80時間）、事後学修（4時間：2時間×2回）、で構成されます（学修時間：計90時間）。単位は2単位です。

２．目的

4技能（「聞く」「話す」「読む」「書く」）について集中的に学び、語学能力を高めることを目標とします。また、海外での生活、社会・文化体験、学生や市民との交流などを通じて、異文化への理解を促進し、学修動機の向上を図ります。

３．研修先

詳しくは、国際教育交流センターの留学に関する資料を参照してください。

４．実施時期

夏季と春季の休業期間中に実施します。

(4) フィールド・プロジェクト

１．概要

海外における約1週間のプロジェクト研修であり、担当教員が引率します。事前学修（12時間：2時間×6回）、出発前合宿（16時間）、海外現地研修（56時間：8時間×7日間）、事後学修（6時間：2時間×3回）で構成されます（学修時間計90時間）。単位は2単位です。

いずれの研修先についても、プログラムは、英語（一部、現地語も含む）の授業、研修国・地域に関する講義、学生や市民との交流、ボランティア活動などで構成されます。

２．目的

国内における事前・事後学修と海外における約1週間の体験・研修から構成されます。国内での集中的な学修と海外の研修先における、学修、交流活動、現地調査、ボランティア活動などの種々の学修及び体験を通して、異文化理解、コミュニケーション能力、協働力を養うことを目的とします。また、学修と体験の過程を通じて、国際感覚の涵養と学修動機の向上を図ります。

３．研修先

詳しくは、国際教育交流センターの留学に関する資料を参照してください。

４．実施時期

夏季と春季の休業期間中に実施します。

(5) 英語圏1セメスター留学

１．概要

英語圏にある海外協定校への1セメスター（15週間以上）の英語留学です。留学先での学修内容、学修時間、成績等に応じて、国際英語研修A～H及びその他の国際学部開設科目の中から、いずれかの科目の単位が認定されます。

２．目的

国際学部の教育目標の1つである「豊かな国際感覚と優れたコミュニケーション能力」の修得のためには、海外留学によって現地での学修と生活の中で能力を高めることが有効な方法です。1セメスター（15週間以上）の期間を、英語圏で過ごし学修することで、英語運用能力、コミュニケーション力の向上とグローバルな視点からの思考力を身につけることを目的とします。

３．留学先

詳しくは、国際教育交流センターの留学に関する資料を参照してください。

４．実施時期

８月あるいは９月からの 15 ～ 16 週間

(6) 交換留学

１．概要

海外協定校への半年から1年の交換留学です。留学先での学修内容、学修時間、成績等に応じて、国際教養研修A～H及びその他の国際学部開設科目の中から、いずれかの科目の単位が認定されます。

２．目的

海外協定校との協定に基づく学生交換を行い、専門科目の履修により専門知識の学修を主な目的とします。世界各国から集まった留学生が共に学び生活する環境が用意されており、様々な知識の修得と共に世界のさまざまな人々と広くコミュニケーションを図ります。

３．交換留学可能な海外協定校

詳しくは、国際教育交流センターの留学に関する資料を参照してください。

４．実施時期

３月あるいは４月、８月あるいは９月から、半年あるいは１年間。

13 資格取得について

(1) 資格取得のすすめ

資格の取得は、大学を卒業して社会に出ていく皆さんにとって、大きな力となります。本学では、学部での学びを深め、学修成果を目に見えるものとする以下の資格の取得を大学として推奨しています。対応するSコース（特修講座）や資格講座、正課科目も開講されるので、積極的に受講してください。Sコース（特修講座）や資格講座の詳細は、別途パンフレットやUNIVERSAL PASSPORTでご案内します。

大学として推奨する資格

●情報系資格

ＩＴパスポート / 情報セキュリティマネジメント / 基本情報技術者 / 応用情報技術者

●英語資格

TOEIC®（L&R 500以上）

●留学生日本語資格

日本語能力試験　N1

●簿記・会計系資格

日商簿記検定試験１級～３級 / ビジネス会計検定試験２級～３級 / 税理士 / 公認会計士

●経済・経営系資格

ファイナンシャルプランニング技能士検定試験２級～３級 / リテールマーケティング（販売士）検定試験２級～３級

●法律系資格

宅地建物取引士 / 行政書士 / 司法書士 / ビジネス実務法務検定試験２級～３級 / 法学検定試験（ベーシック・スタンダード）

●国際ビジネス系資格

国内旅行業務取扱管理者・総合旅行業務取扱管理者 / 国内旅程管理主任者 / 貿易実務検定C級

●教員免許（経済学部・法学部）

中学校教諭一種免許状（社会） / 高等学校教諭一種免許状（地理歴史・公民）

※法科大学院入学試験、大学院入学試験、公務員採用試験など、進路に直結する各種試験の合格についても、資格と同様に推奨し、大学としてサポートします。

(2) 技能資格の単位認定

本学では、学生の皆さんの多様な学修意欲および学修成果を積極的に評価するため、「技能資格等」について単位認定しています。

単位認定された場合、成績表には該当科目に「認定」と評価されます（認定された単位は学期あるいは年間の履修制限単位には含まれません）。

技能資格等のうち下記「単位認定科目」に該当する場合、卒業学科の「その他共通教育科目又は専門教育科目」の単位として「認定」されます。

1. 単位認定科目について

● 「国際学部専門教育科目」として単位を認定

①英語技能資格Ⅰ（２単位）	本学在学中において、TOEIC® L&R 600、TOEFL iBT 40またはIELTS 4.0以上のスコアを取得した場合に認定されます。
②英語技能資格Ⅱ（２単位）	本学在学中において、TOEIC® L&R 730、TOEFL iBT 70またはIELTS 5.5以上のスコアを取得した場合に認定されます。
③日本語技能資格Ⅰ（２単位）	本学在学中において、日本語能力試験 N1に合格、またはBJTビジネス日本語能力テストで530点以上（J1）を取得した場合に認定されます。
④日本語技能資格Ⅱ（２単位）	本学在学中において、BJTビジネス日本語能力テストで600点以上(J1+)を取得した場合に認定されます。

● 「共通教育科目」として単位を認定

●中国語

①中国語検定（２単位）	本学在学中に、日本中国語検定協会「中国語検定試験」４級以上に合格した場合に「認定」されます。
②中国漢語水平考試（HSK）（２単位）	本学在学中に、「漢語水平考試（ＨＳＫ）」３級以上に合格した場合に「認定」されます。

●韓国語

③韓国語能力試験（２単位）	本学在学中に、「韓国語能力試験」２級以上に合格した場合に「認定」されます。
④ハングル能力検定試験（２単位）	本学在学中に、「ハングル能力検定試験」４級以上に合格した場合に「認定」されます。

（注）語学関連技能資格の単位認定に関しては、中国語、韓国語の同一語学分野の語学検定試験のうち、いずれか一つの検定試験結果のみを単位認定します。なお、語学分野が異なる語学検定試験結果については、この限りではありません。

⑤IT資格初級（１単位）	本学在学中において「Microsoft Office Specialist」、「ICTプロフィシエンシー検定試験（P検）」３級以上のいずれかに合格した場合に「認定」されます。
⑥ITパスポート（２単位）	本学在学中において、「ＩＴパスポート試験」に合格した場合に「認定」されます。
⑦基本情報技術者（４単位）	本学在学中において、「基本情報技術者試験」に合格した場合に「認定」されます。
⑧環境社会検定（２単位）	本学在学中において「環境社会検定試験（eco検定試験）®」に合格した場合に「認定」されます。

２．認定方法について

技能資格等についての単位認定申請は、所定の期間内に、当該技能資格取得の証明書等を添付して行います。申請期間･方法については､UNIVERSAL PASSPORTにて学期ごとに案内します。

＜技能資格等の単位認定の流れ＞

各技能資格等を受験 ▶ 「合格」または「点数到達」 ▶ 技能資格単位認定申請 ▶ 「認　定」

14 単位互換履修生

大学コンソーシアム大阪「単位互換履修生」について

本学では、大学コンソーシアム大阪の単位互換に関する包括協定に参加する大学に、本学学生を「単位互換履修生」として派遣することができます。単位互換履修生の出願に関する概要は以下のとおりです。詳細については、毎年３月下旬に掲示等により発表予定です。

◯ 履修できる授業科目および単位数について

単位互換履修生が履修できる科目は、各学部教授会が認めた科目のうち年間８単位以内（在学中の合計は12単位）であり、履修する科目の単位数は、学期及び年間の履修制限単位数には含まれません。

◯ 出願資格および選考について

派遣する単位互換履修生は、原則として２年生以上で次の要件を満たしている学生で、所属する学部教授会の審議を経て、学長が許可します。

・２年次に派遣する者は１年次終了時に40単位以上を取得していること。
・３年次に派遣する者は２年次終了時に80単位以上を取得していること。
・４年次に派遣する者は３年次終了時に100単位以上を取得していること。
ただし、最終年次においては、卒業判定に関わる履修はできません。

◯ 出願方法：出願期間、出願書類等については教務課で確認してください。

◯ 単位の認定および成績評価

単位の認定は、協定大学からの「成績報告書」等に基づき、共通教育科目の「単位互換科目」として行い、成績評価は「認定」とします。

＜出願に際しての注意＞

出願したすべての者が単位互換履修生として派遣されるわけではありません。選考に合格した場合、履修許可後の受講放棄や試験放棄は正当な事由がなければ認められません。

従って、協定大学の学則及び諸規程を遵守することはもちろんのこと、出願に際しては、通学時間などを十分に考慮して時間割編成するなど、しっかりした履修計画を立ててください。

Ⅱ 編入学生履修案内

1 編入学生履修案内

(1) 学修における注意点

単位の認定

編入生の皆さんは、本学に編入学した際、60単位を上限として単位の認定がなされています。但し、認定単位数は、それぞれの提出された成績証明書に基づいて行っており、学生によって異なる場合があります。各自、必ず編入学時に認定された単位数から、卒業に必要な単位を確認し、それぞれに必要な学修を進めるようにしてください。

学修にあたっての注意点等

編入生の皆さんは、本学入学時に60単位を上限とした単位認定がされており、カリキュラムおよび卒業要件等は、編入学を許可された年次に所属する学生と同一の規定が適用されます。

まず、希望する進路や関心に応じて、コース選択を行い、次ページの卒業要件を念頭におきながら、所属学部の専門教育科目を中心に履修・修得しなければなりません。

(2) 履修制限単位

編入生の履修制限単位数は、次の通りです。履修単位数は、年間および学期毎に履修の単位制限が設けられていますので、2年間の学修計画をしっかりと立てて単位を修得してください。

学年	3年次		4年次	
学期	春学期	秋学期	春学期	秋学期
年間制限単位	60単位		60単位	
学期制限単位	30単位	30単位	30単位	30単位

(3) 卒業要件（2023年度編入学生）

2023年度編入学生の卒業要件は、2021年度新入生の卒業要件と同じです。
詳細は、P.54、P.55をご覧ください。

国際学部 国際学科 卒業要件

2021年度入学生

※科目名称は2021年度のものです。時間割やシラバスに表示される名称と異なる場合があります。

授業科目	卒業に要する単位	
共通教育科目	−	14単位以上
専門教育科目	○必修要件 ・専門基礎科目において「Intensive English W/R Ⅰ」、「Intensive English W/R Ⅱ」、「Intensive English L/S Ⅰ」、「Intensive English L/S Ⅱ」の4科目8単位を含めて20単位以上を修得すること。ただし、外国人留学生は、当該英語科目に係る必修要件を、「日本語1」、「日本語2」、「日本語3」、「日本語4」の4科目8単位の修得をもって満たすことができる。 ・専門発展科目において、国際理解科目群から10単位以上修得すること。 ・国際コミュニケーションコースを選択したものは、専門発展科目において、「Advanced English W/R Ⅰ」、「Advanced English W/R Ⅱ」、「Advanced English L/S Ⅰ」、「Advanced English L/S Ⅱ」の4科目8単位を含めコミュニケーション科目群から30単位以上、国際ビジネス関連科目群から10単位以上を修得すること。ただし、外国人留学生は、当該英語科目に係る必修要件を、「日本語5」、「日本語6」、「日本語7」、「日本語8」の4科目8単位の修得をもって満たすことができる。 ・グローバルキャリアコースを選択したものは、専門発展科目において「Advanced English W/R Ⅰ」、「Advanced English W/R Ⅱ」、「Advanced English L/S Ⅰ」、「Advanced English L/S Ⅱ」の4科目8単位を含めコミュニケーション科目群から10単位以上、国際ビジネス関連科目群から30単位以上を修得すること。ただし、外国人留学生は、当該英語科目に係る必修要件を、「日本語5」、「日本語6」、「日本語7」、「日本語8」の4科目8単位の修得をもって満たすことができる。 ・演習科目において、「基礎演習A」、「基礎演習B」の2科目4単位を修得すること。 ・留学・体験科目において「海外語学研修」、「フィールド・プロジェクトⅠ」のいずれか1科目2単位を修得すること。	90単位以上
その他共通教育科目又は専門教育科目	○共通教育科目及び専門教育科目から20単位	20単位以上
合　計		124単位

(1) 共通教育科目

○卒業するには、共通教育科目より、14単位以上修得すること。

(2) 専門教育科目

○卒業するには、専門教育科目より、90単位以上修得すること。ただし、次の各要件を満たすこと。

専門基礎科目

○専門基礎科目において「Intensive English W/R Ⅰ」、「Intensive English W/R Ⅱ」、「Intensive English L/S Ⅰ」、「Intensive English L/S Ⅱ」の4科目8単位を含めて20単位以上を修得すること。ただし、外国人留学生は、当該英語科目に係る必修要件を、「日本語1」、「日本語2」、「日本語3」、「日本語4」の4科目8単位の修得をもって満たすことができる。

必修科目(4科目8単位必修)
Intensive English W/R Ⅰ
Intensive English W/R Ⅱ
Intensive English L/S Ⅰ
Intensive English L/S Ⅱ

＋

選択必修（12単位以上）			
異文化理解Ⅰ・Ⅱ	日本史概論Ⅰ・Ⅱ	世界史概論Ⅰ・Ⅱ	国際政治学Ⅰ
国際社会と法	市民社会と法	日本と国際法	Exam Prep.Ⅰ・Ⅱ
情報処理基礎（旧名称：情報リテラシーⅠ）		データサイエンス基礎（旧名称：情報リテラシーⅡ）	
メディアリテラシー	コミュニケーション論	ことばと文化	日本経済入門
世界経済入門	経営学概論	国際ビジネス概論	

＝20単位以上

専門発展科目（国際理解科目群）

○専門発展科目の国際理解科目群から10単位以上修得すること。

選択必修（10単位以上）
日本文化論、比較文化論、多文化共生社会論、Japanese Culture、Japanese History、Japanese Society、Japanese Geography、Japanese Law and Society、Comparative Culture、Comparative Legal System、ジェンダー論、宗教学、社会思想史、アジア史、アメリカ史、アメリカ外交史、ヨーロッパ史、現代中国事情、現代東南アジア事情、現代オセアニア事情、現代アメリカ事情、現代ヨーロッパ事情、現代中東事情、Regional Studies（Asia）、Regional Studies（Oceania）、Regional Studies（America）、Regional Studies（Europe）、国際政治学Ⅱ、国際関係論、比較政治学、対外政策論、安全保障と国際法、核問題と安全保障、国際紛争の平和的解決と国際法、International Relations and Law(Introduction to International Law)、国際協力法、国際人権法、国際社会と人の移動、International Migration、Multiculturalism in Modern Society、異文化適応論、政治地理学、NPO・NGO論、地方自治と国際協力、国際機構論、比較税制論、社会保障の国際比較、都市計画の国際比較、資源・エネルギー論

コースにおける必修科目・選択必修科目

○次の各コースの要件を満たすこと。

●国際コミュニケーションコース

コミュニケーション科目群（30単位以上）	○必修科目※（4科目8単位） Advanced English W/R Ⅰ Advanced English W/R Ⅱ Advanced English L/S Ⅰ Advanced English L/S Ⅱ	○選択必修（22単位以上） Academic Writing Ⅰ・Ⅱ、Business Communication Ⅰ・Ⅱ、Exam Prep. Ⅲ・Ⅳ・Ⅴ・Ⅵ、Comprehensive English Ⅰ・Ⅱ、Current Affairs、Readings for Global Issues Ⅰ・Ⅱ、翻訳実践、観光英語、貿易英語、日本語文章表現Ⅰ・Ⅱ、日本語コミュニケーション技法Ⅰ・Ⅱ、アカデミックライティング、テクニカルライティング、情報セキュリティ論、ビジネスアプリケーション、クラウド活用実践、データマイニング、Webデザイン実践、メディア論、グローバル化とメディア、ソーシャルメディア論、メディアと広告、ジャーナリズム論、社会心理学、異文化コミュニケーション、プレゼンテーション実践、ディベート実践、ビジネス交渉
国際ビジネス関連科目群（10単位以上）	○選択必修（10単位以上） 日本経済論、世界経済論、経済政策概論、国際経済学概論、環境経済論、国際金融概論、比較経済論、Japanese Economy、中国経済論、東南アジア経済論、アメリカ経済論、ヨーロッパ経済論、ロシア経済論、航空経済論、Contemporary Economic Issues、経営管理概論、経営戦略論、Business Management、会計学概論、税法、国際会計論、経営情報概論、マーケティング論、流通システム論、ビジネス統計、国際経営論、外国為替論、貿易商務論、貿易金融論、国際取引と法（契約と決済）、国際取引と法（紛争処理）、国際ビジネスと知的財産、観光概論、観光資源論、国際観光論、航空実務、クルーズ・ビジネス論、ホスピタリティ論、Tourism and World Heritages、医療ビジネス論	

●グローバルキャリアコース

コミュニケーション科目群（10単位以上）	○必修科目※（4科目8単位） Advanced English W/R Ⅰ Advanced English W/R Ⅱ Advanced English L/S Ⅰ Advanced English L/S Ⅱ	○選択必修（2単位以上） Academic Writing Ⅰ・Ⅱ、Business Communication Ⅰ・Ⅱ、Exam Prep. Ⅲ・Ⅳ・Ⅴ・Ⅵ、Comprehensive English Ⅰ・Ⅱ、Current Affairs、Readings for Global Issues Ⅰ・Ⅱ、翻訳実践、観光英語、貿易英語、日本語文章表現Ⅰ・Ⅱ、日本語コミュニケーション技法Ⅰ・Ⅱ、アカデミックライティング、テクニカルライティング、情報セキュリティ論、ビジネスアプリケーション、クラウド活用実践、データマイニング、Webデザイン実践、メディア論、グローバル化とメディア、ソーシャルメディア論、メディアと広告、ジャーナリズム論、社会心理学、異文化コミュニケーション、プレゼンテーション実践、ディベート実践、ビジネス交渉
国際ビジネス関連科目群（30単位以上）	○選択必修（30単位以上） 日本経済論、世界経済論、経済政策概論、国際経済学概論、環境経済論、国際金融概論、比較経済論、Japanese Economy、中国経済論、東南アジア経済論、アメリカ経済論、ヨーロッパ経済論、ロシア経済論、航空経済論、Contemporary Economic Issues、経営管理概論、経営戦略論、Business Management、会計学概論、税法、国際会計論、経営情報概論、マーケティング論、流通システム論、ビジネス統計、国際経営論、外国為替論、貿易商務論、貿易金融論、国際取引と法（契約と決済）、国際取引と法（紛争処理）、国際ビジネスと知的財産、観光概論、観光資源論、国際観光論、航空実務、クルーズ・ビジネス論、ホスピタリティ論、Tourism and World Heritages、医療ビジネス論	

※ただし、外国人留学生は、当該英語科目に係る必修要件を、「日本語5」、「日本語6」、「日本語7」、「日本語8」の4科目8単位の修得をもって満たすことができる。

演習科目

○演習科目において、「基礎演習A」、「基礎演習B」の2科目4単位を修得すること。

基礎演習A	基礎演習B

留学・体験科目

○留学・体験科目において「海外語学研修」、「フィールド・プロジェクトⅠ」のいずれか1科目2単位を修得すること。

海外語学研修	または、	フィールド・プロジェクトⅠ

(3) その他共通教育科目又は専門教育科目

○卒業するには、その他（共通教育科目及び専門教育科目）より20単位以上修得すること。

共通教育科目（14単位）	＋	専門教育科目（90単位）	＋	その他共通教育科目又は専門教育科目（20単位）	＝124単位

資　　料

大阪経済法科大学学則

第１章　総則

第１条　本大学は、教育基本法及び学校教育法に則り、建学の理念に基づいて、広く知識を授け、深く専門の学芸を教授研究するとともに、豊かな人間性と国際感覚にあふれた独創的で実践力に富む人材を育成し、もって社会の発展と平和に貢献することを使命とする。

第１条の２　本大学は、前条の目的を達成するため、教育研究活動等の状況について自ら点検及び評価を行うとともに、文部科学大臣が指定する認証評価機関による認証評価を受けるものとする。

２　前項の点検及び評価に関する事項については、別にこれを定める。

第１条の３　本大学は、授業の内容及び方法の改善を図るための組織的な研修及び研究を実施するものとする。

第２章　学部及び学科等

第２条　本大学に次の学部及び学科を置く。

経済学部	経済学科
経営学部	経営学科
法学部	法律学科
国際学部	国際学科

２　各学部学科の教育研究上の目的は、次のとおりとする。

（１）　経済学部経済学科は、経済学を中心とする幅広い専門知識と経済学的思考能力を有し、内外の経済情勢の変化を踏まえつつ、経済社会が直面する諸問題を理解し、実学の精神を持って、グローバル化する現代社会の諸課題に創造的に対応できる人材の育成を目指して、教育研究を行う。

（２）　経営学部経営学科は、経営学を中心とする幅広い専門知識と多様な応用能力を修得し、技術革新やグローバル化の進展によって産業や社会システムが変化する中で、実践的な課題解決力を備え、現代ビジネスの諸課題に主体的・創造的に対応できる人材の育成を目指して、教育研究を行う。

（３）　法学部法律学科は、基礎的な法学教育を土台として、法学を中心とする高度な専門知識を授け、正義と公平を旨とするリーガルマインドをもって現代社会の諸課題に積極的に取り組む市民の育成を目指して、教育研究を行う。

（４）　国際学部国際学科は、異文化理解と多文化共生を育み、豊かな国際感覚と優れたコミュニケーション能力を身につけるとともに、幅広い教養と専門性を備え、チームワークとリーダーシップをもって、国際的なビジネス・市民社会で活躍できる人材の養成を目指して、教育研究を行う。

第２条の２　削除

第２条の３　本大学に大学院を置く。

２　大学院に関する学則は、別に定める。

第３条　各学部学科の入学定員及び収容定員は、次のとおりとする。

学部	学科	入学定員	収容定員
経済学部	経済学科	220名	880名
経営学部	経営学科	220名	880名
法学部	法律学科	260名	1,040名
国際学部	国際学科	200名	800名

第３章　授業科目

第４条　本大学の授業科目を共通教育科目と専門教育科目に分ける。

２　共通教育科目は、別表１のとおりとする。

３　各学部において開設する専門教育科目は、別表２のとおりとする。

第４章　修業年限、履修方法及び単位

第５条　本大学の修業年限は、４年とする。

２　在学年数は、８年を超えることができない。

第６条　削除

大阪経済法科大学学則

第７条　各学部学科の学生の卒業に要する単位数は、次のとおりとする。

（１）経済学部経済学科

授業科目	単　位　数
共通教育科目	20単位以上
専門教育科目	90単位以上
その他、共通教育科目及び専門教育科目から14単位	
合　　計	124単位

（２）経営学部経営学科

授業科目	単　位　数
共通教育科目	20単位以上
専門教育科目	90単位以上
その他、共通教育科目及び専門教育科目から14単位	
合　　計	124単位

（３）法学部法律学科

授業科目	単　位　数
共通教育科目	20単位以上
専門教育科目	90単位以上
その他、共通教育科目及び専門教育科目から14単位	
合　　計	124単位

（４）国際学部国際学科

授業科目	単　位　数
共通教育科目	14単位以上
専門教育科目	90単位以上
その他、共通教育科目及び専門教育科目から20単位	
合　　計	124単位

２　各学部の学生の卒業に要する単位数には、他学部の専門教育科目の履修により修得した単位を含めることができる。

３　履修方法その他細則については、別に定める。

第７条の２　年間に修得すべき標準的な単位数は、31単位とする。

２　前項の単位数を下回る学生には、修学指導を実施する場合がある。

第８条　各授業科目の単位数は、１単位の授業科目を45時間の学修を必要とする内容をもって構成することを標準とし、授業の方法に応じ、当該授業による教育効果、授業時間外に必要な学修等を考慮して、次の基準により単位数を計算するものとする。

（1）講義及び演習は、15時間の授業をもって１単位とする。

（2）外国語は、30時間の授業をもって１単位とする。

（3）実験、実習及び体育の実技は、30時間の授業をもって１単位とする。

２　前項の規定にかかわらず、卒業論文、卒業研究等の授業科目については、これらの学修の成果を評価して単位を授与することが適切と認められる場合には、これらに必要な学修等を考慮して、単位数を定めることができる。

第８条の２　授業は、講義、演習、実験、実習若しくは実技のいずれかにより又はこれらの併用により行うものとする。

２　本大学は、文部科学大臣が定めるところにより、前項の授業を、多様なメディアを高度に利用して、当該授業を行う教室等以外の場所で履修させることができる。

３　前項の授業の方法により修得する単位数は、卒業の要件として修得すべき単位数のうち、60単位を超えないものとする。

４　本大学は、第１項の授業を、外国において履修させることができる。第２項の規定により、多様なメディアを高度に利用して、当該授業を行う教室等以外の場所で履修させる場合についても、同様とする。

第９条　経済学部経済学科及び法学部法律学科にそれぞれの教育課程に応じた中学校及び高等学校の教育職員免許状の所要資格を得させるための課程（教職課程）を置く。

2　教育職員免許状の所要資格を得ようとする者は、教育職員免許法及び教育職員免許法施行規則に基づき、必要な授業科目の単位を修得しなければならない。

3　教育職員免許状の所要資格を得ようとする者のために、開設する授業科目及び単位数は、別表３のとおりとする。

4　本大学で取得できる教育職員免許状の種類は、次のとおりとする。

経済学部経済学科	中学校　教諭　一種免許状（社会） 高等学校教諭　一種免許状（地理歴史） 高等学校教諭　一種免許状（公民）
法学部法律学科	中学校　教諭　一種免許状（社会） 高等学校教諭　一種免許状（地理歴史） 高等学校教諭　一種免許状（公民）

第５章　授業科目修了の認定及び学士の学位

第10条　学生は、指定された期日内に履修希望の授業科目を届け出て承認を得なければならない。

第11条　授業科目修了の認定は、筆記又は口述による試験その他適当な方法による。ただし、演習、実験、実習及び体育の実技等は、平常の成績によることができる。

第12条　授業科目修了の認定は、学期末又は学年末に行う。

第13条　授業科目修了の認定は、秀・優・良・可・不可に分け、秀・優・良・可を合格とし、不可を不合格とする。

第14条　合格した授業科目については、所定の単位の修得を認める。

第14条の２　本大学が教育上有益と認めるときは、他の大学又は短期大学（外国の大学又は短期大学を含む。）において履修した授業科目について修得した単位を、本大学における授業科目の履修により修得したものとみなし、本大学の定めるところにより単位を与えることができる。

2　本大学が教育上有益と認めるときは、学生が行う短期大学又は高等専門学校の専攻科における学修その他文部科学大臣が別に定める学修を、本大学における授業科目の履修とみなし、本大学の定めるところにより単位を与えることができる。

3　本大学が教育上有益と認めるときは、学生が本大学に入学する前に大学又は短期大学において履修した授業科目について修得した単位を、本大学に入学した後の本大学における授業科目の履修により修得したものとみなすことができる。

4　本大学が教育上有益と認めるときは、学生が本大学に入学する前に行った短期大学又は高等専門学校の専攻科における学修その他文部科学大臣が別に定める学修を、本大学における授業科目の履修とみなし、本大学の定めるところにより単位を与えることができる。

5　前各項の定めにより、修得したものとみなし、又は与えることのできる単位数は、編入学、転入学等の場合を除き、合わせて60単位を超えないものとする。

第15条　４年以上在学して、所定の授業科目につき定められた単位を修得した者には、教授会の審議を経て、学長が卒業を認定し、学位記を授与する。

第16条　前条により卒業した者には、次の区分に従い、学士の学位を授与する。

経済学部　経済学科　　学 士　（経済学）
経営学部　経営学科　　学 士　（経営学）
法 学 部　法律学科　　学 士　（法　学）
国際学部　国際学科　　学 士　（国際学）

第６章　学年・学期及び休業日

第17条　学年は、４月１日に始まり、翌年３月31日に終わる。

第18条　学年は、次の２学期に分ける。

春学期 ４月１日から ９月30日まで
秋学期 10月１日から 翌年３月31日まで

2　前項の規定にかかわらず、学長が必要と認めるときは、春学期の終期及び秋学期の始期を変更することができる。

第19条　休業日は、次のとおりとする。

（1）日曜日、国民の祝日に関する法律に定める休日、本大学創立記念日（４月26日）
（2）春季休業 ３月21日から４月７日まで
（3）夏季休業 ８月１日から９月30日まで
（4）冬季休業 12月24日から１月７日まで

2　前項の規定にかかわらず、学長が必要と認めるときは、休業日を変更し、又は臨時の休業日を定めることができる。

第７章　入学、転学部、転学科、休学及び退学

第20条　入学の時期は、毎学年始めとする。

第21条　本大学の第１年次に入学することのできる者は、次の各号の一に該当する者とする。

（1）高等学校又は中等教育学校の卒業者
（2）通常の課程による12年の学校教育を修了した者
（通常の課程以外の課程により、これに相当する学校教育を修了した者を含む。）
（3）外国において学校教育における12年の課程を修了した者又はこれに準ずる者で文部科学大臣の指定した者
（4）文部科学大臣が高等学校の課程と同等の課程を有するものとして認定した在外教育施設の当該課程を修了した者
（5）文部科学大臣の指定した者
（6）高等学校卒業程度認定試験規則による高等学校卒業程度認定試験に合格した者（旧規程による大学入学資格検定に合格した者を含む。）
（7）その他相当の年齢に達し、高等学校を卒業した者と同等以上の学力があると本大学が認めた者

第22条　入学者は、検定によって決定する。入学者検定の方法は、その都度定める。

第23条　入学に必要な手続は、別に定める。

第24条　本大学に編入学又は転入学を願い出る者があるときは、選考の上、相当年次に入学を許可することがある。

2　前項の規定により、入学することのできる者は、次の各号の一に該当する者とする。

（1）大学（外国の大学を含む。）に２年以上在学し、所定の単位を修得した者
（2）短期大学（外国の短期大学を含む。）を卒業した者
（3）高等専門学校を卒業した者
（4）専修学校の専門課程のうち文部科学大臣の定める基準を満たすものを修了した者
（5）その他相当の年齢に達し、前各号に規定する者と同等以上の学力があると本大学が認めた者

第25条　本大学に在学する者で、転学部又は転学科を願い出る者があるときは、選考の上、許可することがある。

第26条　第24条及び第25条の取扱いに関しては、別に定める。

第27条　学生が疾病その他やむを得ない事由のため、休学又は退学を願い出たときは、これを許可することがある。

2　休学の期間は、継続２年以内とし、通算して４年を超えることができない。

3　休学期間は、第５条及び第15条に規定する在学期間に算入しない。

第28条　前条により退学した者が再入学を願い出たときは、選考の上、許可することがある。

2　前条により休学した者が復学を願い出たときは、許可を得て復学することができる。

第28条の２　入学、転学部、転学科、休学、退学、再入学及び復学は、教授会の審議を経て、学長が許可する。

第29条　他の大学へ入学又は転学を願い出ようとする者は、教授会の審議を経て、学長の許可を受けなければならない。

第８章　留学及び外国人留学生

第30条　本大学と学生交換に関する協定を締結している外国の大学又はその他の外国の大学に留学を希望する者があるときは、これを許可することがある。

2　外国人で、大学において教育を受ける目的をもって入国し、本大学に入学を願い出る者があるときは、選考の上、外国人留学生として入学を許可することがある。

3　前項の外国人留学生に対しては、第４条に掲げるもののほか、日本語科目及び日本事情に関する科目を置く。日本語科目及び日本事情に関する科目について、その開設する授業科目及び単位数は、別表４のとおりとする。

第30条の２　留学及び外国人留学生の入学は、教授会の審議を経て、学長が許可する。

第31条　留学及び外国人留学生の取扱いに関しては、別に定める。

第９章　聴講生、科目等履修生及び単位互換履修生

第32条　特定の授業科目について聴講を願い出る者があるときは、選考の上、聴講生として許可することがある。

2　聴講生の取扱いに関しては、別に定める。

第32条の２　特定の授業科目について科目等履修を願い出る者があるときは、本学学生の修学の妨げにならない限り、選考の上、科目等履修生として許可することがある。

2　科目等履修生がその履修した授業科目の試験を受け、合格した科目については、単位を与える。
3　科目等履修生の取扱いに関しては、別に定める。
第32条の３　本大学と協定のある他大学の学生で、協定に基づき本大学が提供する授業科目について履修を願い出る者があるときは、選考の上、単位互換履修生として許可することがある。
2　単位互換履修生の取扱いに関しては、別に定める。

第10章　賞罰

第33条　特に学術、課外活動等において顕著な功績があり、他の学生の模範となる者は、これを表彰する。
第34条　学生に本大学の規則に違反し、又は学生の本分に反する行為があると認めたときは、懲戒を加える。
第35条　懲戒処分は、訓告、停学及び退学とする。退学は、次の各号の一に該当する者について行う。
（1）性行不良で改善の見込みがないと認められる者
（2）学業を怠り、成業の見込みがないと認められる者
（3）正当の理由がなくて出席が常でない者
（4）本大学の秩序を乱し、その他学生としての本分に反した者
2　学生懲戒の取扱いに関しては、別に定める。

第11章　入学検定料、科目等履修生検定料、転学部検定料、転学科検定料、入学金、授業料、在籍料、聴講料、履修登録料及び履修料

第36条　本大学に入学を出願する者は、別表５に定める入学検定料を納付しなければならない。
2　科目等履修生として出願する者は、別表６に定める科目等履修生検定料を納付しなければならない。
3　転学部又は転学科を出願する者は、別表７に定める転学部検定料又は転学科検定料を納付しなければならない。
第37条　本大学に入学を許可された者は、別表８に定める入学金を納付しなければならない。
第38条　学生は、別表９に定める授業料を納付しなければならない。
2　所定の期間内に休学願を提出しこれが許可された場合は、前項にかかわらず、別表10に定める在籍料を納付しなければならない。
第38条の２　本大学は、大学等における修学の支援に関する法律に基づき、入学金及び授業料の減免を実施する。
2　前項の減免の取扱いについては、別に定める。
第39条　聴講生は、別表11に定める聴講料を納付しなければならない。
第39条の２　科目等履修生は別表12に定める履修登録料及び履修料を納付しなければならない。
第40条　入学検定料、科目等履修生検定料、転学部検定料、転学科検定料、入学金、授業料、在籍料、聴講料、履修登録料及び履修料等の徴収については別に定める。
第41条　既納の入学検定料、科目等履修生検定料、転学部検定料、転学科検定料、入学金、授業料、在籍料、聴講料、履修登録料及び履修料等は、別に定めのある場合を除き返還しない。
第42条　授業料、在籍料その他の学費の納付を怠った者は、除籍する。
2　前項により除籍された者が復籍を願い出たときは、選考の上許可することがある。

第12章　教職員組織

第43条　本大学に、学長、教授、准教授、講師、助教、助手及び事務職員を置く。
2　教職員に関する規定は、別に定める。
第43条の２　学長は、大学を代表し、建学の理念に基づき、学則その他制規の定めるところにより学務を統括運営する。

第13章　図書館

第44条　本大学に図書館を置く。
2　図書館に関する規定は、別に定める。

第14章　附属研究機関

第45条　本大学に次の附属研究機関を置く。
（1）21世紀社会総合研究センター
（2）地域総合研究所
（3）アジア研究所
（4）アジア太平洋研究センター
2　前項に規定する研究機関に関し必要な事項は、別に定める。

第15章　教授会

第46条　本大学に学部教授会を置く。
第47条　削除
第48条　削除
第49条　削除
第50条　各学部は、各学部所属の教授、准教授、講師、助教及び助手をもって構成され、各学部長が招集して議長となる。
第51条　教授会は、学長が次に掲げる事項について決定を行うに当たり意見を述べるものとする。
（1）学生の入学、再入学及び卒業
（2）学位の授与
（3）教育課程編成に関する事項
（4）学生の転学部、転学科、他大学への入学又は転学、休学、退学、復学及び留学に関する事項
（5）学生の懲戒処分に関する事項
（6）教員資格審査に関する事項
（7）前各号に掲げるもののほか、教育研究に関する重要な事項で、教授会の意見を聴くことが必要なものとして、学長が定めるもの
2　教授会は、前項に規定するもののほか、学長及び学部長（以下、「学長等」という。）がつかさどる教育研究に関する事項について審議し、及び学長等の求めに応じ、意見を述べることができる。
第52条　各学部の教授会に関する規定は、別に定める。

第16章　大学協議会

第53条　本大学に大学の運営に関する重要事項について審議するため、大学協議会を置く。
第54条　削除
第55条　削除
第56条　大学協議会に関する規定は、別に定める。

附則
1　この学則は、令和5年4月1日から施行する。
2　令和4年度以前の入学者の授業科目については、なお従前の例による。ただし、別表2（2）の新規開設科目については、令和4年度以前の入学者にも適用する。
3　経営学部経営学科の収容定員は、改正後の第3条の規定にかかわらず、令和5年度、令和6年度及び令和7年度については次のとおりとする。

学部学科	令和5年度	令和6年度	令和7年度
経営学部 経営学科	820名	840名	860名

附則
1　この学則は、令和5年4月1日から施行する。
2　第7条、別表1、別表2、別表3及び別表4の改正は、令和5年度入学者から適用し、令和4年度以前の入学者の卒業要件及び授業科目等については、なお従前の例による。ただし、別表1及び別表2（1）（2）（3）の新規開設科目、並びに別表2（4）の新規開設科目のうち卒業論文、留学・体験科目、キャリア形成科目及び技能資格関連科目については、令和4年度以前の入学者にも適用する。

＜別表１＞

令和５年度　共通教育科目（経済学部経済学科、経営学部経営学科、法学部法律学科及び国際学部国際学科）

区分		授業科目	単位	開設学部 経済学部	経営学部	法学部	国際学部	備　考
教養科目	外国語科目	英語A	1	○	○	○		経済学部、経営学部及び法学部は、4科目4単位必修。ただし、外国人留学生は、英語科目の必修要件を、別表4に定める日本語Ⅰ、日本語Ⅱ、日本語Ⅲ、日本語Ⅳ、日本語Ⅴ、日本語Ⅵのいずれか2科目4単位の修得をもって満たすことができる。
		英語B	1	○	○	○		
		英語C	1	○	○	○		
		英語D	1	○	○	○		
		英語総合演習A	2	○	○	○		
		英語総合演習B	2	○	○	○		
		英語コミュニケーション演習A	2	○	○	○		
		英語コミュニケーション演習B	2	○	○	○		
		中国語A	1	○	○	○	○	
		中国語B	1	○	○	○	○	
		中国語総合演習A	2	○	○	○	○	
		中国語総合演習B	2	○	○	○	○	
		中国語コミュニケーション演習A	2	○	○	○	○	
		中国語コミュニケーション演習B	2	○	○	○	○	
		韓国語A	1	○	○	○	○	
		韓国語B	1	○	○	○	○	
		韓国語総合演習A	2	○	○	○	○	
		韓国語総合演習B	2	○	○	○	○	
		韓国語コミュニケーション演習A	2	○	○	○	○	
		韓国語コミュニケーション演習B	2	○	○	○	○	
	文章作成・読解分野	文章作成Ⅰ	2	○	○	○	○	
		文章作成Ⅱ	2	○	○	○	○	
		文章理解	2	○	○	○	○	
	人文・社会分野	哲学	2	○	○	○	○	
		倫理学	2	○	○	○	○	
		論理学	2	○	○	○	○	
		日本史	2	○	○	○	○	
		世界史	2	○	○	○	○	
		文学	2	○	○	○	○	
		心理学	2	○	○	○	○	
		芸術学	2	○	○	○	○	
		日本国憲法	2	○	○	○	○	
		地理学	2	○	○	○	○	
		社会学	2	○	○	○	○	
	数理・自然分野	数的処理ＩＡ	2	○	○	○	○	
		数的処理ＩＢ	2	○	○	○	○	
		数的処理ⅡＡ	2	○	○	○	○	
		数的処理ⅡＢ	2	○	○	○	○	
		数的推理(数の性質)	2	○	○	○	○	
		数的推理（確率と図形）	2	○	○	○	○	
		判断推理（論理）	2	○	○	○	○	
		判断推理（図形）	2	○	○	○	○	
		資料解釈	2	○	○	○	○	
		データサイエンス	2	○	○	○	○	
		科学の歴史	2	○	○	○	○	
		現代社会と科学	2	○	○	○	○	
		生命科学と人間	2	○	○	○	○	
	情報分野	AIと産業・社会	2	○	○	○	○	
		情報ストラテジ	2	○	○	○	○	
		情報マネジメント	2	○	○	○	○	
		情報テクノロジ	2	○	○	○	○	
		情報科学演習	2	○	○	○	○	
		プログラミングⅠ	2	○	○	○	○	
		プログラミングⅡ	2	○	○	○	○	
		プログラミングのための情報数理	2	○	○	○	○	
		情報セキュリティ	2	○	○	○	○	
		ワープロ実践	2	○	○	○	○	
		表計算実践	2	○	○	○	○	
		データベース実践	2	○	○	○	○	
		デジタルプレゼンテーション	2	○	○	○	○	
		ワープロ応用	2	○	○	○	○	
		表計算応用	2	○	○	○	○	

区分		授業科目	単位	開設学部 経済学部	経営学部	法学部	国際学部	備　考
教養科目	スポーツ・健康分野	体育実技A	1	○	○	○	○	
		体育実技B	1	○	○	○	○	
		生涯スポーツA	1	○	○	○	○	
		生涯スポーツB	1	○	○	○	○	
		トレーニング演習A	2	○	○	○	○	
		トレーニング演習B	2	○	○	○	○	
		スポーツ論	2	○	○	○	○	
		スポーツ指導論	2	○	○	○	○	
		スポーツ管理論	2	○	○	○	○	
		現代社会と健康	2	○	○	○	○	
	総合分野	飢餓と貧困	2	○	○	○	○	
		平和学	2	○	○	○	○	
		地球と環境	2	○	○	○	○	
		気候変動と社会	2	○	○	○	○	
		資源・エネルギーと社会	2	○	○	○	○	
		ジェンダーと社会	2	○	○	○	○	
		現代社会と人権	2	○	○	○	○	
		現代社会と教育	2	○	○	○	○	
		学校ボランティア	2	○	○	○	○	
		教養特別講義A	2	○	○	○	○	
		教養特別講義B	2	○	○	○	○	
	海外留学科目	英語研修Ⅰ	2	○	○	○		
		英語研修Ⅱ	2	○	○	○		
		中国語研修Ⅰ	2	○	○	○		
		中国語研修Ⅱ	2	○	○	○		
		韓国語研修Ⅰ	2	○	○	○		
		韓国語研修Ⅱ	2	○	○	○		
		留学語学研修A	2	○	○	○		
		留学語学研修B	2	○	○	○		
		留学語学研修C	2	○	○	○		
		留学語学研修D	2	○	○	○		
		留学語学研修E	2	○	○	○		
		留学語学研修F	2	○	○	○		
		留学語学研修G	2	○	○	○		
		留学語学研修H	2	○	○	○		
		留学教養研修A	2	○	○	○		
		留学教養研修B	2	○	○	○		
		留学教養研修C	2	○	○	○		
		留学教養研修D	2	○	○	○		
		留学教養研修E	2	○	○	○		
		留学教養研修F	2	○	○	○		
		留学教養研修G	2	○	○	○		
		留学教養研修H	2	○	○	○		
	技能資格関連科目	英検	2	○	○	○		
		TOEIC	2	○	○	○		
		TOEFL	2	○	○	○		
		IELTS	2	○	○	○		
		中国語検定	2	○	○	○	○	
		中国漢語水平考試(HSK)	2	○	○	○	○	
		韓国語能力試験	2	○	○	○	○	
		ハングル能力検定試験	2	○	○	○	○	
		IT資格初級	1	○	○	○	○	
		ITパスポート	2	○	○	○	○	
		基本情報技術者	4	○	○	○	○	
		環境社会検定	2	○	○	○	○	

＜別表２＞

（4）令和５年度　国際学部　国際学科　専門教育科目

学科	授業科目	単位	備　考
国際学科	Intensive English W/R Ⅰ	2	8科目16単位必修。ただし、外国人留学生は、当該英語科目に係る必修要件を、日本語1、日本語2、日本語3、日本語4、日本語5、日本語6、日本語7、日本語8の8科目16単位の修得をもって満たすことができる。
	Intensive English W/R Ⅱ	2	
	Intensive English L/S Ⅰ	2	
	Intensive English L/S Ⅱ	2	
	Advanced English W/R Ⅰ	2	
	Advanced English W/R Ⅱ	2	
	Advanced English L/S Ⅰ	2	
	Advanced English L/S Ⅱ	2	
	日本語1	2	留学生科目
	日本語2	2	留学生科目
	日本語3	2	留学生科目
	日本語4	2	留学生科目
	日本語5	2	留学生科目
	日本語6	2	留学生科目
	日本語7	2	留学生科目
	日本語8	2	留学生科目
	国際学基礎A	2	国際学基礎A、国際学基礎B、情報処理基礎、データサイエンス基礎の4科目8単位を含む24単位以上選択必修
	国際学基礎B	2	
	情報処理基礎	2	
	データサイエンス基礎	2	
	ビジネスアプリケーション	2	
	Exam Prep.Ⅰ	2	
	Exam Prep.Ⅱ	2	
	Exam Prep.Ⅲ	2	
	世界史概論	2	
	日本史概論	2	
	ジェンダー論	2	
	Current World Events Ⅰ	2	
	コミュニケーション論	2	
	異文化コミュニケーション	2	
	ことばと社会	2	
	異文化理解	2	
	国際社会学	2	
	世界の宗教	2	
	観光概論	2	
	国際政治学Ⅰ	2	
	国際政治学Ⅱ	2	
	国際社会と法	2	
	日本と国際法	2	
	国際経済基礎	2	
	国際経済概論	2	
	国際経営基礎	2	
	国際ビジネス概論	2	
	Advanced English Ⅲ	2	留学生科目
	Advanced English Ⅳ	2	留学生科目
	日本語9	2	
	日本語10	2	
	Exam Prep.Ⅳ	2	
	Exam Prep.Ⅴ	2	
	Exam Prep.Ⅵ	2	
	Current World Events Ⅱ	2	
	Global Issues Ⅰ	2	
	Global Issues Ⅱ	2	
	Readings for International Studies Ⅰ	2	〈英語コミュニケーションコース〉 Advanced EnglishⅢ、Advanced EnglishⅣの2科目4単位を含む24単位以上選択必修。 ただし、外国人留学生は、Advanced EnglishⅢ、Advanced EnglishⅣに係る必修要件を、日本語9、日本語10の2科目4単位の修得をもって満たすことができる。
	Readings for International Studies Ⅱ	2	
	Global Citizen's Project	2	
	Business Communication Ⅰ	2	
	Business Communication Ⅱ	2	
	English for Tourism	2	
	翻訳実践	2	
	通訳実践	2	
	コミュニケーション技法Ⅰ	2	
	コミュニケーション技法Ⅱ	2	
	アカデミックライティング	2	
	テクニカルライティング	2	
	プレゼンテーション実践	2	
	比較文化論	2	
	多文化共生社会論	2	
	Japanese Culture	2	
	Cultural Studies	2	
	Multicultural Society	2	
	International Migration	2	
	言語習得と文化	2	
	多言語社会と言語政策	2	
	言語文化論	2	
	Language and Culture	2	
	観光資源論	2	
	国際観光論	2	
	ホスピタリティ論	2	
	航空実務	2	
	航空経済論	2	
	Tourism and World Heritages	2	
	現代日本事情	2	〈アジア太平洋コース〉 現代日本事情、現代中国事情、現代アメリカ事情、現代東南アジア事情のうち1科目2単位、アジア太平洋地域研究A、アジア太平洋地域研究B、アジア太平洋地域研究C、アジア太平洋地域研究Dのうち1科目2単位、SDGs特別講義A、SDGs特別講義B、SDGs特別講義Cのうち1科目2単位、計6単位を含む24単位以上選択必修。
	現代中国事情	2	
	現代アメリカ事情	2	
	現代東南アジア事情	2	
	アジア太平洋地域研究A	2	
	アジア太平洋地域研究B	2	
	アジア太平洋地域研究C	2	
	アジア太平洋地域研究D	2	
	SDGs特別講義A	2	
	SDGs特別講義B	2	
	SDGs特別講義C	2	
	比較政治学	2	
	国際関係論	2	
	対外政策論	2	
	政治地理学	2	
	国際協力法	2	
	安全保障と国際法	2	
	国際人権法	2	
	海洋法・国際環境法	2	
	比較税制論	2	
	NPO・NGO論	2	
	地方自治と国際協力	2	
	比較法	2	
	Introduction to International Law	2	
	国際経済学Ⅰ	2	
	国際経済学Ⅱ	2	
	環境経済論	2	
	開発経済論	2	
	比較経済論	2	
	Contemporary Economic Issues	2	
	経営管理論	2	
	経営戦略論	2	
	経営組織論	2	
	人的資源管理論	2	
	マーケティング論	2	
	経営情報論	2	
	流通システム論	2	
	企業の社会的責任論	2	
	会計学	2	
	アントレプレナーシップ論	2	
	Business Management	2	
	貿易実務	2	
	基礎演習A	2	
	基礎演習B	2	
	専門演習ⅠA	2	
	専門演習ⅠB	2	
	専門演習ⅡA	2	
	専門演習ⅡB	2	
	専門演習ⅢA	2	2科目4単位必修
	専門演習ⅢB	2	
	卒業論文	4	
	留学・体験科目		
	海外語学研修A	2	1科目2単位以上選択必修
	海外語学研修B	2	
	海外語学研修C	2	
	海外語学研修D	2	
	国際英語研修A	2	
	国際英語研修B	2	
	国際英語研修C	2	
	国際英語研修D	2	
	国際英語研修E	2	
	国際英語研修F	2	
	国際英語研修G	2	
	国際英語研修H	2	
	国際教養研修A	2	
	国際教養研修B	2	
	国際教養研修C	2	
	国際教養研修D	2	
	国際教養研修E	2	
	国際教養研修F	2	
	国際教養研修G	2	
	国際教養研修H	2	
	フィールド・プロジェクトA	2	
	フィールド・プロジェクトB	2	
	フィールド・プロジェクトC	2	
	キャリア形成科目		
	国際キャリア開発A	2	
	国際キャリア開発B	2	
	国際キャリアデザインA	2	
	国際キャリアデザインB	2	
	国際キャリア演習A	2	
	国際キャリア演習B	2	
	インターンシップⅠ	1	
	インターンシップⅡ	1	
	海外インターンシップ	2	
	技能資格関連科目		
	英語技能資格Ⅰ	2	
	英語技能資格Ⅱ	2	
	日本語技能資格Ⅰ	2	
	日本語技能資格Ⅱ	2	

大阪経済法科大学国際学部履修規程

（趣旨）

第１条　この規程は、大阪経済法科大学学則第７条第３項の規定に基づき、大阪経済法科大学国際学部学生（以下「学生」という。）の授業科目の履修方法等に関し必要な事項を定める。

（授業科目の区分）

第２条　授業科目は、必修科目、選択必修科目、履修指定科目及び自由選択科目に分ける。

２　国際学部において開設する授業科目及び単位数等は、別表１のとおりとする。

（コース制）

第３条　国際学部に、次の各号に掲げるコースを置く。

（1）英語コミュニケーションコース

（2）アジア太平洋コース

２　学生は、２年次に、前項に定めるコースのいずれかを選択しなければならない。

３　コースの変更は、原則として認めない。ただし、修学上必要と認める場合は、国際学部長は、コースの変更を許可することができる。

（卒業に必要な単位数）

第４条　学生の卒業に必要な授業科目及び単位数は、次のとおりとする。

授業科目	卒業に要する単位数	
共通教育科目	14単位以上	
専門教育科目	○必修要件 ・必修外国語において、英語8科目16単位を修得すること。ただし、外国人留学生は、当該英語科目に係る必修要件を、日本語1、日本語2、日本語3、日本語4、日本語5、日本語6、日本語7、日本語8の8科目16単位の修得をもって満たすことができる。 ・専門基礎科目において、国際学基礎A、国際学基礎B、情報処理基礎、データサイエンス基礎の4科目8単位を含む24単位以上を修得すること。 ・英語コミュニケーションコースを選択した者は、専門発展科目において、「外国語発展」「コミュニケーション」「社会・文化」「観光・ホスピタリティ」区分の科目から、Advanced English Ⅲ、Advanced English Ⅳの2科目4単位を含む24単位以上を修得すること。ただし、外国人留学生は、Advanced English Ⅲ、Advanced English Ⅳに係る必修要件を、日本語9、日本語10の2科目4単位の修得をもって満たすことができる。 ・アジア太平洋コースを選択した者は、専門発展科目において、「各国・地域事情」「アジア太平洋地域研究」「SDGs関連」「国際関係」「国際経済」「国際ビジネス」区分の科目から、「各国・地域事情」のうち1科目2単位、「アジア太平洋地域研究」のうち1科目2単位、「SDGs関連」のうち1科目2単位、計6単位を含む24単位以上を修得すること。 ・演習科目において、専門演習ⅢA、専門演習ⅢBの2科目4単位を修得すること。 ・留学・体験科目において、1科目2単位以上を修得すること。	90単位以上
その他共通教育科目又は専門教育科目	○共通教育科目及び専門教育科目から20単位 ○技能資格等に関する単位は、「その他共通教育科目又は専門教育科目」の卒業に要する単位にのみ算入できる。	20単位以上
	合　計	124単位

２　卒業見込み証明書は、４年次以上の春学期において前年度末までに80単位以上修得し、かつ履修科目により卒業要件を満たす者、又は４年次以上の秋学期において履修科目により卒業要件を満たす者に発行する。

（履修の届出）

第５条　学生は、各学期に履修を希望する科目を所定の期日までに届け出て承認を得なければならない。

２　前項の規定にかかわらず、４年次以上の学生は、春学期に、秋学期において履修を希望する科目も届け出なければならない。

３　履修の届け出をしない者は、当該科目の授業及び試験を受けることができない。

（履修の上限）

第６条　年間及び各学期において履修できる単位数の上限は、年間履修上限を48単位、学期履修上限を24単位とする。ただし、前年度のGPA（年間）が、3.50以上の学生については、年間履修上限を52単位、学期履修上限を26単位とする。

２　前項の規定にかかわらず、3年次編入学生については、年間履修上限を60単位、学期履修上限を30単位とする。

３　第１項の履修上限には、次の各号に掲げる科目を含まない。

（1）夏季又は春季休業中等に集中授業を行う科目

（2）留学・体験科目

（3）インターンシップ

（4）大学コンソーシアム大阪の単位互換科目

（5）卒業論文

（履修の取り消し）

第７条　学生が、各学期において履修を届け出て承認を受けた科目の登録の取り消しを希望する場合は、所定の期日に手続きをして許可を得なければならない。

２　前項により許可を得た場合でも、あらたに別の科目を登録することはできない。

３　第１項の規定にかかわらず、次の科目は、履修登録を取り消すことができない。

（1）必修科目

（2）履修指定科目

（3）履修を許可する学生を選考する科目

（試験の区分）

第８条　試験は、定期試験、臨時試験、追試験及び卒業再試験とする。

２　定期試験は、学期末試験期間中に行う試験をいう。

３　臨時試験は、担当教員が必要に応じて臨時に行う試験をいう。

４　追試験は、病気その他やむを得ない理由により、定期試験を受けることができなかった者に対して行う試験をいう。

５　卒業再試験は、当該年度の卒業予定者で、定期試験に不合格となったときに、その試験に合格することによって卒業要件を満たすことができる者に対して行う試験をいう。

（成績評価等）

第９条　成績評価は、試験その他平素の成績を総合して行うものとする。

2　成績は、最高評点を100点、合格点を60点以上とし、成績評価の評語、GP (Grade Point)、評点及び評価基準は、次のとおりとする。

評語		GP	評点	評価基準
秀	S	4	90点以上	各授業科目に定める学修の到達目標を達成し、特に優れた学修成果を修めている。
優	A	3	80点以上 89点以下	各授業科目に定める学修の到達目標を達成し、優れた学修成果を修めている。
良	B	2	70点以上 79点以下	各授業科目に定める学修の到達目標を達成し、良好な学修成果を修めている。
可	C	1	60点以上 69点以下	各授業科目に定める学修の到達目標を達成している。
不可	D	0	59点以下	各授業科目に定める学修の到達目標を達成していない。

3　編入学及び留学等により単位を認定した科目の評価は、「認定」とする。

4　GPA (Grade Point Average) の算定は、次の計算式による。ただし、第４条に定める卒業に要する単位に含まれない科目及び「認定」と評価した科目については、GPAの算定には含めない。

GPA＝（履修科目のGP×その科目の単位数）の総和／（履修科目の総単位数）

（卒業の認定）

第10条　４年以上在学し、国際学部の所定の課程を修めた者には、卒業を認定する。

2　春学期末において所定の課程を修めた者には、春学期末の卒業を認定する。

（その他）

第11条　学則及びこの規程に定めのない事項については、国際学部教授会の審議を経て、学長がこれを定める。

附則

1　この規程は、2023年4月1日から施行する。

2　2022年度以前の入学者のコース、卒業要件、授業科目等については、なお従前の例による。ただし、別表1（1）の新規開設科目、並びに別表1（2）の新規開設科目のうち卒業論文、留学・体験科目、キャリア形成科目及び技能資格関連科目については、2022年度以前の入学者にも適用する。

附則

1　この規程は、2023年4月1日から施行する。

2　2022年度以前の入学者の履修の上限については、なお従前の例による。

別表は掲載を省略しています。

MEMO

MEMO

MEMO

２０２３年度　履修要項

国 際 学 部

発行日　２０２３年４月１日
大阪経済法科大学

〈花岡キャンパス〉
〒581-8511　大阪府八尾市楽音寺 6-10
TEL 072-920-7062（教務課）
TEL 072-941-8211（代表）

〈八尾駅前キャンパス〉
〒581-8522　大阪府八尾市北本町 2-10-45
TEL 072-920-4711（代表）

大阪経済法科大学

https://www.keiho-u.ac.jp

〈花岡キャンパス〉
〒581-8511　大阪府八尾市楽音寺6-10
TEL 072-920-7062（教務課）
TEL 072-941-8211（代表）

〈八尾駅前キャンパス〉
〒581-8522　大阪府八尾市北本町2-10-45
TEL 072-920-4711（代表）